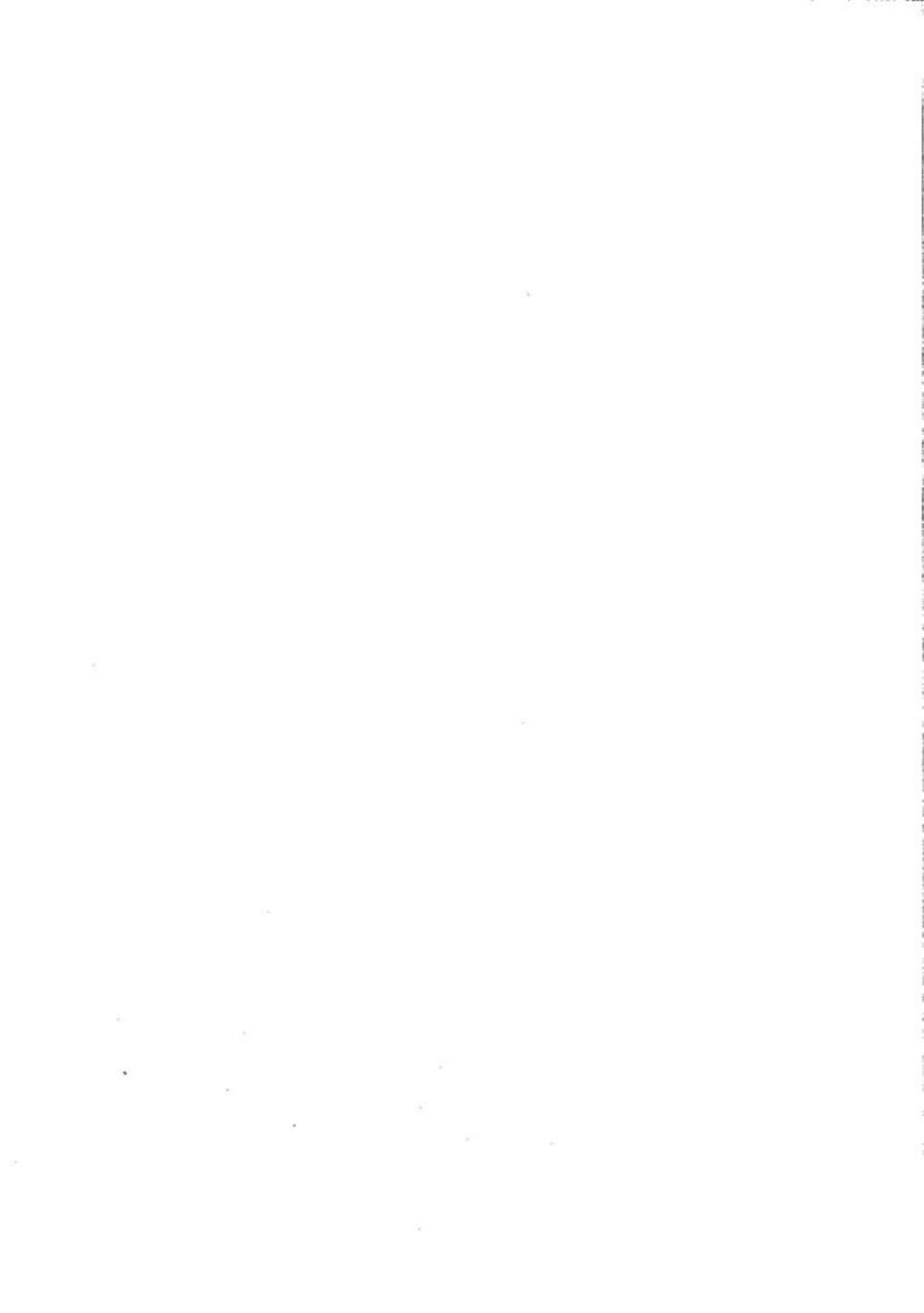


**八尾市文化財調査報告49
平成15年度国庫補助事業**

八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書

2004年3月

八尾市教育委員会



八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書 正誤表

頁・行	誤	正
1頁 2行	発掘調査	遺構確認調査
3頁 15・19・21・25・30行	古墳時代中期	飛鳥時代
4頁 3行	古墳時代中期後葉	飛鳥時代
4頁 8～10行	また、（中略）示唆される。	抹消
40頁 図版10	中田遺跡(2003-315)	東郷遺跡(2003-315)
40頁 図版10	27東郷203-203	27東郷2003-315
41頁 図版11	31西郡庵寺2003-367	31西郡庵寺2002-367
42頁 図版12	水越遺跡(2003-343)	水越遺跡(2002-343)
44頁 図版14	4 東郷遺跡2003-426	4 東郷遺跡2002-426
報告書抄録	北緯	北緯
報告書抄録	ひがしゆり やおしややこづか 東弓削 八尾市都塙	ひがしゆり やおしややあざみやこづか 東弓削 八尾市大字都塙
報告書抄録	4 東郷遺跡 集落 古墳時代中期	4 東郷遺跡 集落 飛鳥時代

はじめに

八尾市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、生駒山地の山麓部から大阪平野の東部にかけて市域を有しております。古くは、河内湖、河内潟に面し、旧大和川をはじめとする多くの河川によって、肥沃な平野が形成されてきました。旧石器時代から近世に至るまで先人達が残した多くの遺構や遺物が残されており、全国的にも有数な遺跡の宝庫と呼べる地域であります。

本書は、当教育委員会が平成15年度に(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施した市内の個人住宅建設や民間の各種事業の工事等に伴う遺構確認調査の成果を収めております。

今後、市内の貴重な埋蔵文化財が、市民の方々をはじめ、多くの人々に親しまれるよう、保存・活用されていくことが重要な課題となるでしょう。本書が、その役割の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

八尾市教育委員会

教育長 森 卓

例 言

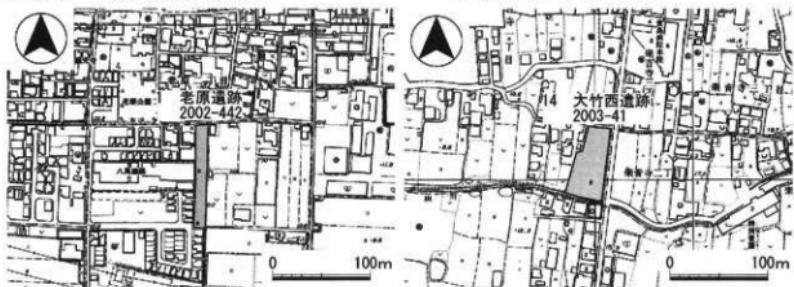
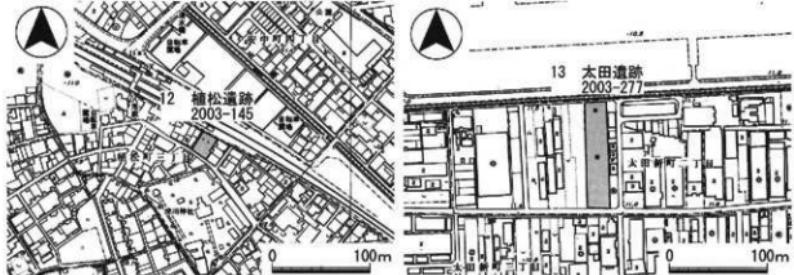
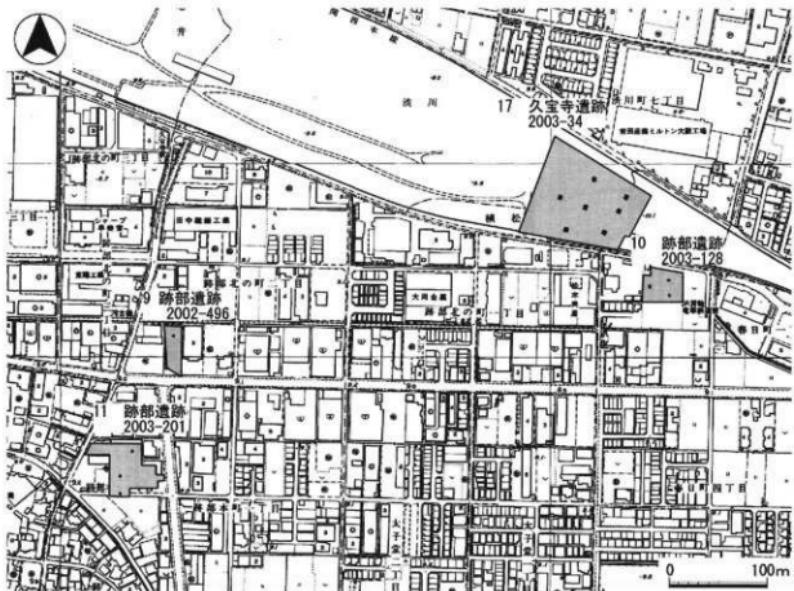
1. 本書は、平成15年度の国庫補助事業（市内遺跡）として、八尾市内で実施した発掘調査の報告書である。平成14年度実施分についても一部掲載している。
2. これらの調査は、八尾市教育委員会が(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施したものである。
3. 本書の作成にあたっては、(財)八尾市文化財調査研究会の各調査担当者（岡田清一、高萩千秋、成海佳子、西村公助、樋口 薫）が執筆を行い、執筆分担は各報告の文末に記した。
4. 本書の編集は、八尾市教育委員会生涯学習部文化財課において行った。

本文目次

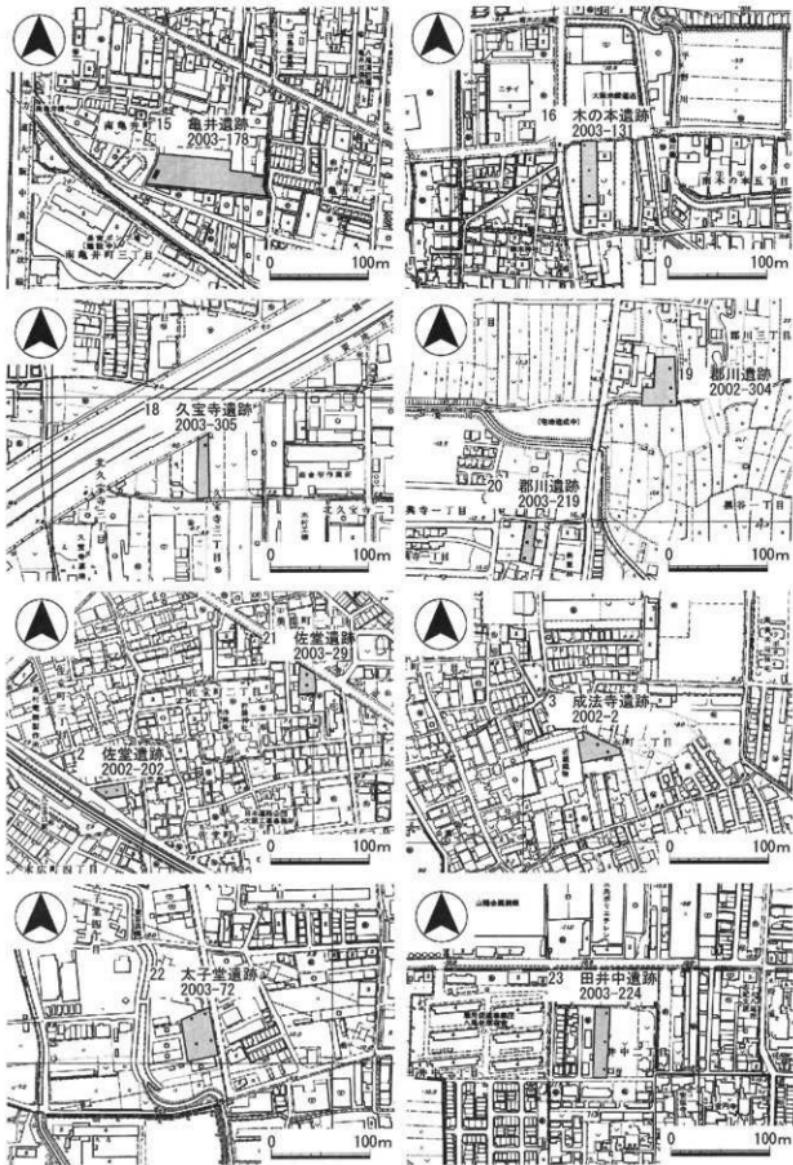
調査地位置図 I ~ IV	
1 老原遺跡(2002-442)の調査	1
2 佐堂遺跡(2002-202)の調査	1
3 成法寺遺跡(2002-2)の調査	2
4 東郷遺跡(2002-426)の調査	3
5 東郷遺跡(2002-345)の調査	4
6 東郷遺跡(2002-479)の調査	5
7 中田遺跡(2002-428)の調査	6
8 美園遺跡(2002-424)の調査	7
9 跡部遺跡(2002-496)の調査	7
10 跡部遺跡(2003-128)の調査	8
11 跡部遺跡(2003-201)の調査	9
12 植松遺跡(2003-145)の調査	9
13 太田遺跡(2003-277)の調査	10
14 大竹西遺跡(2003-41)の調査	10
15 亀井遺跡(2003-178)の調査	11
16 木の本遺跡(2003-131)の調査	15
17 久宝寺遺跡(2003-34)の調査	16
18 久宝寺遺跡(2003-305)の調査	17
19 郡川遺跡(2002-304)の調査	17
20 郡川遺跡(2003-219)の調査	18
21 佐堂遺跡(2003-291)の調査	19
22 太子堂遺跡(2003-72)の調査	19
23 田井中遺跡(2003-224)の調査	20
24 東郷遺跡(2003-50)の調査	21
25 東郷遺跡(2003-40)の調査	22
26 東郷遺跡(2003-234)の調査	23
27 東郷遺跡(2003-315)の調査	23
28 中田遺跡(2003-203)の調査	24
29 中田遺跡(2003-261)の調査	24
30 西郡廃寺遺跡(2003-89)の調査	25
31 西郡廃寺遺跡(2002-367)の調査	25
32 東弓削遺跡(2003-127)の調査	26
33 東弓削遺跡(2003-150)の調査	27
34 東弓削遺跡(2003-239)の調査	28
35 水越遺跡(2002-343)の調査	28
36 水越遺跡(2003-233)の調査	29
37 欠作遺跡(2003-270)の調査	29
38 弓削遺跡(2003-195)の調査	30

図版目次

図版 1	老原遺跡(2002-442)の調査
	佐堂遺跡(2002-202)の調査
	成法寺遺跡(2002-2)の調査
	東郷遺跡(2002-426)の調査
図版 2	東郷遺跡(2002-426)の調査
	東郷遺跡(2002-345)の調査
	東郷遺跡(2002-479)の調査
図版 3	東郷遺跡(2002-479)の調査
	中田遺跡(2002-428)の調査
	美園遺跡(2002-424)の調査
	跡部遺跡(2002-496)の調査
図版 4	跡部遺跡(2003-128)の調査
	跡部遺跡(2003-201)の調査
	植松遺跡(2003-145)の調査
図版 5	太田遺跡(2003-277)の調査
	大竹西遺跡(2003-41)の調査
	亀井遺跡(2003-178)の調査
図版 6	亀井遺跡(2003-178)の調査
	木の本遺跡(2003-131)の調査
	久宝寺遺跡(2003-34)の調査
図版 7	久宝寺遺跡(2003-34)の調査
	久宝寺遺跡(2003-305)の調査
	郡川遺跡(2002-304)の調査
図版 8	郡川遺跡(2003-219)の調査
	佐堂遺跡(2003-291)の調査
	太子堂遺跡(2003-72)の調査
	田井中遺跡(2003-224)の調査
図版 9	東郷遺跡(2003-50)の調査
	東郷遺跡(2003-40)の調査
図版10	東郷遺跡(2003-234)の調査
	東郷遺跡(2003-315)の調査
	中田遺跡(2003-203)の調査
図版11	中田遺跡(2003-261)の調査
	西郡廃寺遺跡(2003-89)の調査
	西郡廃寺遺跡(2002-367)の調査
	東弓削遺跡(2003-127)の調査
図版12	東弓削遺跡(2003-150)の調査
	東弓削遺跡(2003-239)の調査
	水越遺跡(2002-343)の調査
図版13	水越遺跡(2003-233)の調査
	矢作遺跡(2003-270)の調査
	弓削遺跡(2003-195)の調査
図版14	東郷遺跡(2002-426)の調査
	跡部遺跡(2003-128)の調査
	亀井遺跡(2003-178)の調査



第1図 調査地位置図 I (S=1/5000)



第2図 調査地位置図Ⅱ (S=1/5000)



第3図 調査位置図Ⅲ (S=1/5000)



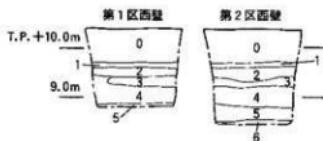
第4図 調査地位置図IV (S=1/5000)

1 老原遺跡(2002-442)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う発掘調査
2. 調査地：八尾市老原3丁目12番1の一部
3. 調査期間：平成15年2月18日
4. 調査方法：分譲住宅建設予定地内に、2m四方の調査区を2箇所(北部を第1区、南部を第2区)設定した。掘削深度は現地表(T.P.+10.4m前後)から約2mまでの工事規模を対象とする。

5. 調査概要：【層序】第0層—現地表(T.P.+10.4m前後)から約0.7mまでは既存の宅地造成に伴う盛土、第1層—SG2/1縁黒色シルト(近・現代の作土層)、第2層—オリーブ灰色砂質シルト(第1区では、本層から「タキメ」を有する時期不明の土師質の土器片が1点出土した)、第3層—N5/0灰色細粒砂(氾濫性による水成層)、第4層—10GY4/1暗緑灰色シルト、第5層—10GY7/1明緑灰色砂質シルト～細粒砂(氾濫性による水成層で、湧水が著しい)、第6層—7.5YR7/3にびい橙色シルト。

6. まとめ：周辺における既往の調査成果を見ると、平安時代後期～室町時代にかけての居住域に関連する遺構・遺物が顕著に検出されているが、本調査地では遺構は確認されず、遺物も皆無に等しい。今回の調査区の堆積層を概観すると、第1区では氾濫性の水成層、第2区では第7～9層に水田を示唆するような攪拌が見られる。これらのことから、既往の調査で見つかっている居住域は当地までは広がらず、当地は生産域であった可能性が高い。
(岡田清一)



第5図 地層断面図(S=1/100)

2 佐堂遺跡(2002-202)の調査

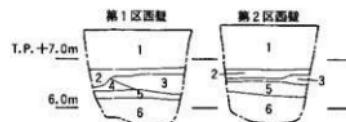
1. 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市佐堂町3丁目62の一部
3. 調査期間：平成15年2月25日
4. 調査方法：建物基礎部分に2箇所(規模2.0×2.0m)の調査区を設定し調査を行った。北側を第1区、南側を第2区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南側道路上T.P.+7.9m)を使用した。

5. 調査概要：【第1区・第2区】現地表下約2.0mまでに6層の堆積を確認した。1層は盛土。2層は10Y6/1灰色粗粒砂の流水堆積と思われる。3層は10YR5/2灰黄褐色細粒シルト混粘土でマンガン斑を含み、粘土のグロックが混入している。第1区の3層からは土師器の破片が、第2区の3層からは瓦器の破片が少量出土した。4層は10YR5/1褐灰色細粒シルト質粘土で炭化物を少量含む。第1区4層からは瓦器碗の破片が出土した。5層は10BG4/1暗青灰色粘土質細粒シルト、6層は5G4/1暗緑灰色粘土質細粒シルトである。

6. まとめ：3層および4層内には上師器および瓦器の破片が含まれていたが、遺構の検出はなかった。遺物の時期は、瓦器碗の体部の器面に残るミガキなどの調整から、おそらく鎌倉時代であると思われる。今回の調査の南東側約200m地点では財團法人八尾市文化財調査研究会が第1次調査を行っており、平安時代末から室町時代中期の遺構の存在を確認していることから、今回確認した3層と4層は同時代の遺構面に相当する可能性が高く、近隣に遺構が存在している可能性が高いと推測される。
(西村公助)

参考文献

- ・原田昌則 1996「13. 佐堂遺跡(第1次調査)」「平成7年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会



第6図 地層断面図(S=1/100)

3 成法寺遺跡(2002-2)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市南本町2丁目30番3の一部、30番25の一部、36番2、37番1、37番2
3. 調査期間：平成15年1月29日
4. 調査方法：規模約 $2.0 \times 2.0\text{m}$ 、面積約 4.0m^2 2箇所(第1区・第2区と呼称)について、現地表(GL=T.P.+9.5m前後)下1.8m前後までを機械と人力を併用して掘削し、調査を行った。

5. 調査概要：【地層】(第1区)現地表下0.5m前後までは客土・盛土(100層)。以下現地表下1.8m前後までの1.3m間で、8層もの地層を確認した。101層は黒褐色細礫混シルト～中粒砂。搅拌を受けた地層で、旧耕土に相当する。102層はにぶい黄褐色粗粒砂～細礫混シルト～中粒砂で、土器飾や瓦器の細片が混在する。103層は黄灰色極粗粒砂～細礫混シルト～極細粒砂である。炭化物や瓦器の細片を極少量含む地層で、管状の酸化マンガンの沈着も認められる。その層相から判断すると、102層・103層は土壤化層と推測される。S1は黄灰色シルト～極細粒砂(瓦器細片が混在。雲状の酸化マンガンを含む)で、103層上面から切り込む遺構の埋土の可能性も考えられる。104層以下は水成層である。104層は灰色極細粒砂～細粒砂で、管状の酸化マンガンを含む。105層は灰色細粒砂～中粒砂。106層は黒褐色粘土質シルトで粘性に富む。木片がラミナ状に入っている。一時期、閉塞した湿地帯のような環境下にあった可能性が高い。107層は黄灰色細粒砂～中粒砂で、ラミナ構造を有する。108層は暗灰黄色粗粒砂～極粗粒砂。雲状の酸化鉄分が沈着する。

(第2区)現地表下0.5m前後までは客土・盛土層(200層)。以下現地表下1.6mまでの1.1m間で、9層もの地層を確認した。201層は黒褐色細礫混シルト～中粒砂。101層同様、搅拌を受けた地層で、旧耕土に相当する。202層は褐灰色細礫混シルト～極細粒砂。203層は暗灰黄色シルトで、雲状に沈着した酸化マンガンを極少量含む。204層は灰オリーブ色細礫混シルト～細粒砂。なお202層～204層はその層相から判断すると、土壤化層の可能性が高い。205層以下は水成層である。205層は灰黃褐色シルト～粗粒砂で、わずかではあるがラミナ構造も認められる。雲状の酸化マンガンを極めて多く含む。206層は灰黃褐色シルト～極細粒砂。207層は黄灰色シルト～粗粒砂で、ラミナ構造が良好に残る。208層は灰オリーブ色を呈したシルトでグライ化が日立つ。209層は灰黃褐色粗粒砂～極粗粒砂で、雲状の酸化鉄分を多く含む。

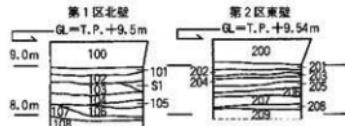
【検出遺構・出土遺物】検出遺構はなし。出土遺物は上記の通り、両調査区から瓦器細片が少量出土している。

6.まとめ：今回の調査地の南約200m地点で実施された第13次調査(SH94-13)では、鎌倉時代後期の井戸や土坑、小穴、溝で構成された居住域を検出している。したがって、今回の調査地でも当該期の遺構・遺物の検出を想定したわけであるが、成果は上記の通りである。調査面積が小さいこともあり、不明な点が多い。ただし、出土した遺物はいずれも細片であることから判断すれば、第13次調査で検出された居住域が当調査地にまで広がることは否定的と言えよう。

(樋口 煉)

参考文献

- ・西村公助「15.成法寺遺跡第13次調査(SH94-13)」『平成6年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会



第7図 地層断面図(S=1/100)

4 東郷遺跡(2002-426)の調査

1. 調査名: 共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地: 八尾市桜ヶ丘3丁目132番地

3. 調査期間: 平成15年1月28日

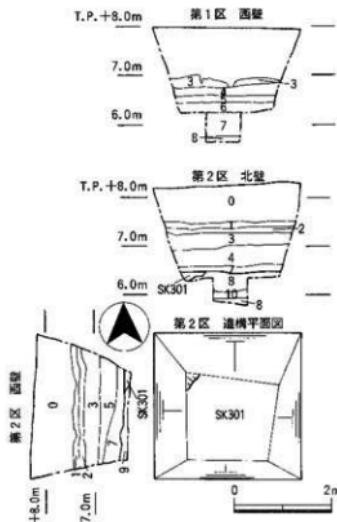
4. 調査方法: 共同住宅建設予定地内の北西隅(第1区)、北部中央(第2区)、南西隅(第3区)にそれぞれ1箇所ずつ計3箇所に調査区を設定し、いずれも3m四方の規模で掘削を実施した。掘削は現況地盤(T.P.+8.0~8.3m)から1.0mまでの盛土(第0層)および近・現代の作土層(第1層)を重機で排除した後、以下約1.5mの地層を重機と人力を併用して掘削した。

5. 調査概要: 【循序】第3区については、現況地盤から約2.5mまで産業廃棄物の埋め戻しによって搅乱されていた。以下、第1区と第2区で確認した第2層以下の層序について記述する。

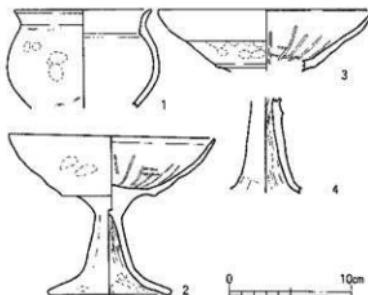
第2層-7.5YR6/2灰褐色砂疊混じりシルト(マンガン斑が認められる)、第3層-7.5YR7/6橙色シルト(古墳時代中期以降に比定される土師器および須恵器の破片を数点検出した)、第4層-10GY3/1暗緑灰色シルト(本層からも第3層と同時期の遺物片を数点検出した)、第5層-7.5YR4/2灰褐色砂疊混じりシルト(古墳時代中期に比定される土師器片を含む)、第6層-N4/0灰色シルト、第7層-10BG6/1青灰色砂質シルト(古墳時代中期に比定される土師器片を含む。とくに第2区では第1区に比して量的に多い)、第8層-10YR8/3浅黄橙色シルト(第2区では本層の上面(T.P.+6.5m前後)において、古墳時代中期に比定される土坑SK301を1基検出した)、第9層-10BG6/1明青灰色粘土質シルト、第10層-5PB7/1明青灰色細粒砂(湧水があり、河成する堆積層と推定される)。

【検出遺構と出土遺物】第2区の北西隅において古墳時代中期に比定される土坑(SK301)を1基検出した。遺構掘方の北部および西部は調査区外に至るため全容は不明である。検出規模は、最大径25cm・深さ20cmを測る。遺構内埋土は上層と同じ第7層で、遺物は土師器片の小破片が数点出土したが図化できなかった。

今回の調査で出土した遺物のうち図化できたものは、第2区の第7層から出土した小型壺1点(1)、高杯3点(2~4)の計4点である。1は球膨化した体部から短く外反する口縁部を有する。口径11cm・体部最大径12.4cmを測る。2はほぼ完形品に近いものである。杯部に段を有するもので、口縁部は底部から内側に伸びる。杯内面には、放射状のヘラミガキが施される。脚柱部の外側には縦方向に幅広のヘラミガキが施されるが、脚底部は内外面ともに指頭



第8図 地層断面図・平面図(S=1/100)



第9図 第2区-第7層出土遺物実測図(S=1/4)

圧痕が顕著に見られ、粗雑な作りである。口径16.7cm・裾部径9.6cm・器高13.2cmを測る。3は杯部、4は脚部のみの残存で、いずれも形態と調整から見て2と同種のものと思われる。3の杯部口径は17.5cmを測る。3点ともに古墳時代中期後葉頃に比定される。

6.まとめ：今回の調査区付近では、南側では八尾市教育委員会による第22次調査、北西側と東側では当研究会による第24次・第38次調査の3件の調査が実施されている。その結果、第22次調査では古墳時代前期に比定される建物址、第24次調査では弥生時代後期～鎌倉時代に至る4時期の遺構、第38次調査では古墳時代初頭に比定される溝をそれぞれ検出している。本調査の第1区が第38次調査に近接しており、同時期（古墳時代初頭）の遺物と推定される堆積層を確認した。また、第3区で検出した土坑（SK301）については、本地区の南東側に当たる第24次調査において5世紀中葉に位置付けられる円筒埴輪を伴う古墳が検出されており、位置関係とともに年代観も含め、この古墳との有機的関係が示唆される。（岡田）

参考文献

- ・米田敏幸 1987「東郷遺跡第22次発掘調査概要」『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告15 八尾市教育委員会
- ・高萩千秋 1991「第3章 第24次調査」『東郷遺跡 - 第23次・第24次発掘調査報告』（財）八尾市文化財調査研究会報告29 （財）八尾市文化財調査研究会
- ・岡田清一 1992「X I 東郷遺跡（第38次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』（財）八尾市文化財調査研究会報告34 （財）八尾市文化財調査研究会

5 東郷遺跡（2002-345）の調査

1. 調査名：共同住宅建築に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市桜ヶ丘1丁目48番2

3. 調査期間：平成15年1月30日

4. 調査方法：建築予定地内に2m四方の調査区を2箇所（南から第1・2区）設定し、現地表下2.0m前後までの掘削を行った。高さの基準は、調査地の東約100地点の水準（T.P.+8.109m）から移動した。

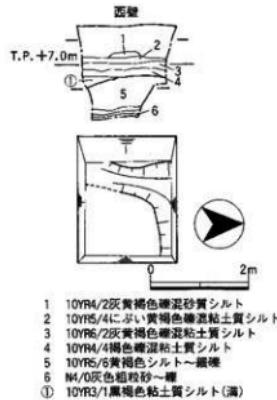
5. 調査概要：調査区の層序は概ね一定で、盛土以下1～6層を検出した。現地表面の高さはT.P.+6.7～6.8mで、南が高い。盛土の厚さは0.4～0.8m、1層旧耕土上面の高さはT.P.+7.1～7.3mを測る。

2・3層は鉄・マンガン等を含む搅拌された層で、作土と考えられる。4層はマンガンを含む硬く締まった層で、土器の極小破片を含んでいる。5層以下は水成層で下部にはラミナがみられ、厚さ0.6～0.8mで6層に至る。

6.まとめ：調査の結果、第1区の現地表下1.1m（T.P.+6.7m）の5層上面で、L字形に曲がる溝状遺構を検出した。南北東西に屈曲するもので、幅0.6m・深さ0.4mを測る。埋土は細粒砂にシルト質粘土のブロックで、遺物は出土していない。周辺の調査結果から、方形周溝墓の可能性も考えられるが、マウンドの盛土は確認できていない。（成海佳子）

参考文献

- ・原田昌則 1987「Ⅲ 東郷遺跡（第20次調査）」『八尾市文化財発掘調査概要 昭和61年度』（財）八尾市文化財調査研究会



第10回 地盤断面図・平面図(S=1/100)

6 東郷遺跡(2002-479)の調査

1. 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市桜ヶ丘3丁目84,87,88,100

3. 調査期間：平成15年3月13日

4. 調査方法：建物基礎部分（規模

$3.0 \times 3.0 \text{m}^2$ 箇所 面積 18.0m^2 ）の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標準高値（調査地の南東側道路上T.P.+8.0m）を使用した。

5. 調査概要：【第1区】現地表下

約1.7mまでに4層の堆積を確認した。

1層は盛土、2層は10YR4/6褐色細砂混粘土である。3層は10YR3/3暗褐色細粒砂混粘土で、マンガンの斑点が確認できる。上面で奈良～平安

時代の遺構（土坑1基 SK101）

を検出した。4層は10YR4/2灰黃褐

色粘土質細粒シルトである。なお東壁には、遺構と思われるくぼみ（埋土10YR3/2黒褐色粗粒砂混粘土）を確認した。

S K101：土坑の肩は南側のみの検出であるため、形状や規模は不明である。深さは約0.2mを測り、埋土は10YR2/3黒褐色粗粒砂混粘土で、土師器（1）や須恵器（2・3）が出土した。1は皿で、内湾して伸びる口縁部。端部は四線状にくぼむ。体部外面に指頭圧痕が残る。2は杯身で、内面回転ナデ、外面は回転ケズリ。外面には先が細く尖った工具を押さえつけたことにより、くぼんだ線が確認できる。ヘラ記号か？3は壺の体部で、内面同心円タタキ、外面格子タタキを施す。

また、1層からは土師器（4）、3層内からは須恵器（5）が出土した。4は杯で、端部に面をもつ。外面は強いヨコナデによる凹凸が確認できる。5は杯蓋である。凹凸のある天井部で、口縁端部は下方へつまみ出し丸終わる。外側に面をもつ。内外面ともに回転ナデを施す。

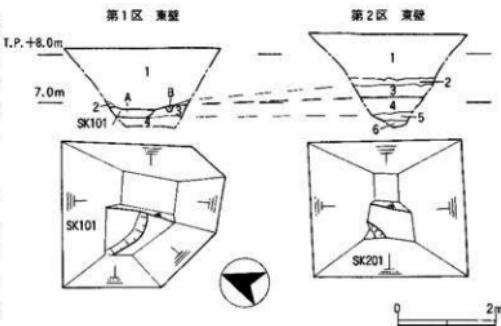
この他、上げ土からは土師器（6）、須恵器（7）の破片が出土した。6は壺の口縁部である。外反する口縁部で、外面はヨコナデを施す。7は壺の体部～頸部で、頸部は直立ぎみに外側へ伸びる。内外面ともに回転ナデを施す。

【第2区】現地表下約1.9mまでに6層の堆積を確認した。1層は盛土。2層はN3/0暗灰色細粒砂混粘土の旧耕作土である。3層は10YR4/6褐色細粒砂混粘土、4層は10YR3/3暗褐色細粒砂混粘土で、マンガンの斑点が確認できる。4層上面で奈良時代から平安時代の遺構（土坑1基 SK201）を検出した。5層は10YR4/2灰黃褐色粘土質細粒シルト、6層は7.5YR6/2灰褐色粘土質細粒シルトである。

S K201：遺構の肩は東側のみの検出で、南・西・北側は調査区外にいたるため、形状や規模は不明である。深さは約0.1mを測り、埋土は10YR3/4暗褐色粗粒砂混粘土で、土師器や須恵器の破片が出土した。8は土師器の杯蓋である。

また、4層からは土師器（9・10）、須恵器（11～13）が出土している。9・10は土師器の皿である。11・12は杯蓋で、5世紀中頃に比定できる。13は杯蓋の天井部で、かえりが付く。6世紀末～7世紀初め頃に比定できる。

6.まとめ：今回の調査ではT.P.+6.8～7.1mで土坑を検出した。また古墳時代や奈良時代および平安時代の遺物を含んでいる地層を確認したことから、同時期の居住域が存在している可能性が高いと考えられる。

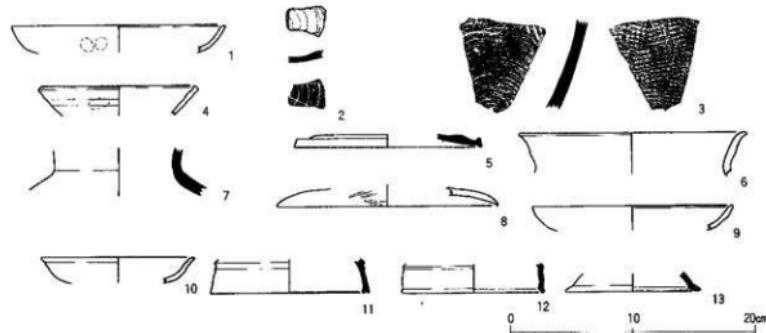


第11区 地層断面図・平面図(S=1/100)

(西村)

参考文献

- ・米田敏幸 1981 「東郷遺跡発掘調査概要」「八尾南遺跡・東郷遺跡発掘調査概要」八尾市文化財調査報告6 昭和55年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・米田敏幸 1995 「3. 東郷遺跡(94-369)の調査」「八尾市内遺跡平成6年度発掘調査報告書II」八尾市文化財調査報告32 平成6年度公共事業 八尾市教育委員会
- ・岡田清一 1995 「Ⅲ 東郷遺跡(第45次調査)」「東郷遺跡 財団法人八尾市文化財調査研究会報告48」(財)八尾市文化財調査研究会



第12図 出土遺物実測図(S=1/4)

7 中田遺跡(2002-428)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う造構確認調査

2. 調査地：八尾市八尾木北2丁目109-2

3. 調査期間：平成15年2月17日

4. 調査方法：人孔部分(規模2.0×2.0m面積4m²)の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の北西側道路上T.P.+9.5m)を使用した。

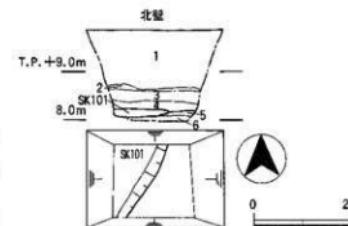
5. 調査概要：現地表下約1.9mまでに6層の堆積を確認した。1層は盛土で、2層は5B2/1青灰色細粒砂混粘土で、旧耕作土である。3層は7.5YR5/2明褐色細粒砂混粘土で、4層は10YR5/2灰褐色粘土質細粒シルトである。5層は10YR4/1褐色粘土質細粒シルトで、マンガン斑点が認められる。6層は2.5Y4/1黄灰色粘土である。5層上面で古墳時代前期(布留式期)の土坑1基(SK101)を検出した。造構の肩は東側のみの検出であるため、形状や規模は不明である。SK101の深さは0.3mを測る。埋土は灰褐色細粒砂混粘土で、炭化物を含み、古式土師器の破片が少量出土した。1は布留傾向窓である。口縁部は外反する。罐部は内側へ丸くつまみだす。

6.まとめ：古墳時代前期の遺物が出土していることから、同時期の集落が存在していると思われる。

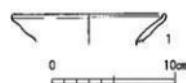
(西村)

参考文献

- ・1974「中田遺跡」中田遺跡調査報告I 日本電信電話公社大阪東地区管理部地下線埋設工事に伴う調査 中田遺跡調査センター



第13図 地層断面図・平面図(S=1/100)



第14図 SK101出土遺物実測図(S=1/4)

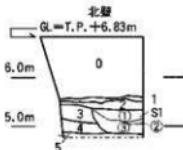
6

8 美園遺跡(2002-424)の調査

- 調査名：兼用住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市美園町4丁目65-109、110
- 調査期間：平成15年2月12日
- 調査方法：規模約 $2.0 \times 2.0\text{m}$ 、面積約 4.0m^2 1箇所について、現地表(T.P.+6.83m前後)下2.0m前後までを機械と人力を併用して掘削。なお、調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値(溝金地の南東に位置するT字路のセンター:T.P.+6.8m)を使用した。

5. 調査概要：【地層】現地表下1.2m前後までは客土・盛土(0層)。以下現地表下2.0m前後までの0.8m間で5層の水平堆積層と3層の遺構内埋土と思われる地層を確認した。1層は、暗灰色極細粒砂～細粒砂で、ブロック状に2層が混在する。おそらく搅拌をしたことによって2層が巻き上がったのであろう。旧耕土に相当すると思われる。2層は、オリーブ灰色細粒砂～粗粒砂で形成された水成層である。東に向かうにつれて粗粒化し、層厚も増す。3層は、オリーブ灰色粗粒砂～細礫。3～5cm大的ブロックが混在し、汚れた地層である。4層は、オリーブ灰色中礫混粗粒砂～細礫。水成層である。5層は、灰色シルト質粘土で、マンガン斑を極めて多く含む点が特徴的である。S1は3層上面から切り込む遺構と推測される。埋土は①～③の3層に分層できる。①層はオリーブ灰色シルト～細礫で、水平に発達したラミナ構造が見える。②層はオリーブ灰色シルトで、こちらも水平ラミナが発達している。一方③層は、灰オリーブ色を呈した細礫混粘土質シルトのブロック(3～5cm大)で形成された地層である。

【検出遺構・出土遺物】北壁地層断面で確認したS1のみである。遺構に伴う遺物は皆無であるため、時期などは不明。



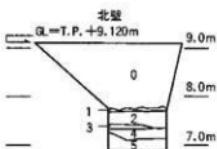
第15図 地層断面図(S=1/100)

9 跡部遺跡(2002-496)の調査

- 調査名：事務所付工場建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市跡部北の町2丁目47-1、47-2
- 調査期間：平成15年5月1日
- 調査方法：人坑部分(規模約 $2.5 \times 2.5\text{m}$ 、面積約 6.25m^2) 1箇所について、工事により破壊される現地表下2.5m前後までを調査した。調査で使用したレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の南を東西に伸びる道路上:T.P.+9.0m)である。

5. 調査概要：現地表(T.P.+9.126m)下1.4mまでは、客土・盛土。以下現地表下2.2m前後までの0.8m間で5層(1～5層)の地層を確認した。1層は、暗オリーブ灰色シルト質粘土～粘土質シルトである。旧耕土と推測される。2層はオリーブ灰色粘土質シルト。本層も1層同様搅拌を受けた地層である。3層は灰オリーブ色シルト～極細粒砂。水成層である。4層はオリーブ灰色極細粒砂～細粒砂で形成された水成層である。大方において、ブロック土の混在しているところが認められる。5層にはぶい黄褐色シルト質粘土。雲状の酸化マンガンを極めて多く含む地層である。遺構は検出されなかった。出土遺物は、2層内に瓦の細片(時期不明)が混入していただけである。

(樋口)



第16図 地層断面図(S=1/100)

参考文献

・小林義孝 2002『跡部遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告2001-6 大阪府教育委員会

10 跡部遺跡(2003-128)の調査

- 調査名：共同住宅建築に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市春日町1丁目51の一部、52の一部
- 調査期間：平成15年7月18日

4. 調査方法：建築予定地内に3m四方の調査区を3箇所(西から反時計回りに第1～3区)設定し、現地表下2.0m前後までの掘削を行った。調査地の東約40m地点の基準点(旧国土第VI系X=-153,412,061・Y=-37,327,919・H=T.P.+9.5m)から、標高・座標等を移動した。各調査区とも、現地表から0.7～1.0m程度までに堆積する耕土・床土等を重機によって掘削し、5層以下の地層については、各層ごとに上面精金を繰り返し、遺構・遺物の検出に努めた。その結果、第2区で古墳時代前期・中期・奈良時代以降の遺構、第3区で飛鳥時代以降の埋没河川を検出した。

5. 調査概要：調査地上面の高さはT.P.+8.5～9.0mで、北側の道路より0.6～0.7m低い。調査地の旧状は水田である。1層耕土以下には、2層整地層・3層旧耕土があり、それ以下には4層床土・作土が0.3～0.5mの厚さで堆積している。5層はマンガンを多量に含み、層厚0.1～0.5mを測る。層中からは土師器・須恵器・瓦が少量出土している。6層は上面に鉄分を多量に含むもので、層厚0.1～0.3mを測るが、第3区にはなかった。以下7・8層も第3区では認められず、第3区ではこの時期、埋没河川④～⑥がこれに対応する。以下9・10層が全地区を通じて認められ、第3区最下では11層まで確認した。

第1面溝① 第2区～5層上面で検出した。東西方向に伸び、幅0.7m・深さ0.3mを測る。4層からなる高まりの裾部に掘られたもので、農事用の区画溝の可能性がある。

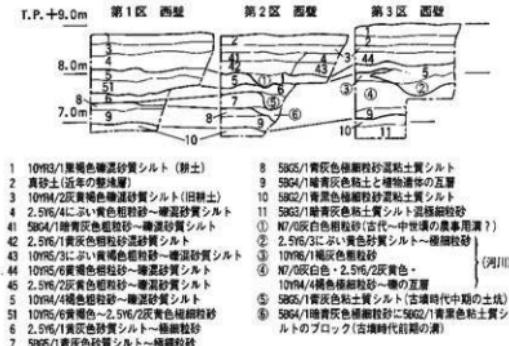
第2面河川②～④ 第3区～5層直下で、南東～北西に流路を持つ河川を検出した。切り込み面はおそらく6層上面であろう。このうち②は、河川埋没後に構築された溝、または最終の河川流路であろう。近隣の調査結果から、飛鳥時代以降と考えられる。

第3面土坑⑤ 第2区～7層上面で検出した。径1.0m前後の円形で、深さは0.5mである。内部から完形の土師器甕(第18図)が須恵器片とともに出土した。5世紀中頃のものであろう。

第4面溝⑥ 第2区～8層上で北西方向へ2段に落ちる溝肩を検出した。埋土は粗いブロックからなる。

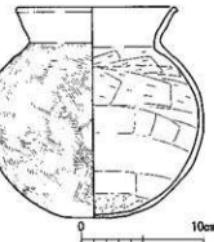
6.まとめ：近隣の調査結果同様、複数の時期の遺構・遺物を検出した。T.P.+8.0m前後の5層中には、飛鳥時代以降の土師器・須恵器・瓦などの小破片が少量含まれており、整地された可能性がある。それ以降の当地は、農地として利用されていたようである。T.P.+7.0m前後で認められた10層は、弥生時代後期の遺構ベースに対応するものと考えられ、弥生時代の遺構面(第5面)も広範囲にわたって存在していることがわかる。

(成海)



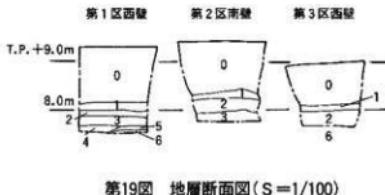
第17図 地層断面図(S=1/100)

第18図 出土遺物実測図(S=1/4)



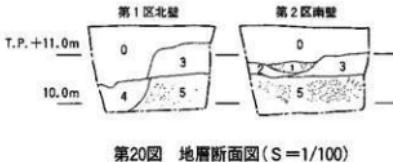
11 跡部遺跡(2003-201)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市跡部本町1丁目54・55-1・-4・-6・58-1・-3・-4及び53-2・55-2・-3・-5の一部
- 調査期間：平成15年9月10日
- 調査方法：調査地内に1.5×1.5mの調査区を北から第1～3区と称して計3箇所設定し、掘削は現地表(T.P.+9.0～9.4m)下約1.5mまで実施した。
- 調査概要：【層序】現地表から1m前後は以前の建築物(工場)に伴う盛土(第0層)で、その下に0.2m前後の旧耕作土(第1層)が堆積する。なお、現地表の標高は第1・2区がT.P.+9.4m前後、南端部にあたる第3区はT.P.+9.0m前後と、現地では南部が0.4m前後低くなっている。第2層-5BG2/1青黒色シルト(近世の磁器片が若干含まれる)、第3層-5YR7/2明褐灰色シルト(中世頃と思われる土師器片が若干含まれる)、第4層-5PB6/1青灰色砂質シルト(氾濫性の水成層)、第5層-2.5Y4/1黄灰色シルト(炭化物と時期不明の上師器片が若干含まれる)、第6層-N7/0灰白色極細粒砂(氾濫性の水成層で、湧水層が著しい)。
- まとめ：遺構は検出されなかったが、中世頃に比定される遺物片を若干検出できた。周辺における既往の調査成果と今回確認した地層から判断すると、当地点において中世以前は河道であったことが推測される。
(岡田)



12 植松遺跡(2003-145)の調査

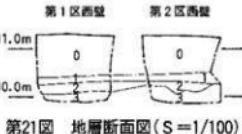
- 調査名：兼用住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市植松町3丁目7-6の一部
- 調査期間：平成15年9月16日
- 調査方法：調査地内に2.0×2.0mの調査区を2箇所設定し、西を第1区、東を第2区と称した。掘削は現地表(T.P.+11.6m前後)下約1.8mまで実施した。
- 調査概要：両調査区ともに現地表から1.0m前後は盛土および擾乱(第0層)で、その下0.8m前後の半分は水成層である砂層が堆積する。以下、確認できた第1～5層について記述する。第1層-2.5Y7/3浅黄色シルトと極細粒砂の互層(水平ラミナ構造を有する水成層である)、第2層-10YR4/1褐灰色シルト(一部、第1層に切られる)、第3層-5Y8/4淡黄色シルト～極細粒砂(第2区では、第1・2層に切られる層位関係が認められる)、第4層：2.5Y6/3にびい黄色シルト～細粒砂(2cm前後の礫を若干含む)、第5層-10YR8/3浅黄橙色極細粒砂(氾濫性の水成層で、斜行ラミナが顕著に見られる)。
- まとめ：両調査区ともに現代の盛土および擾乱層の下には、概ね河川の氾濫による厚い砂層の堆積が見られる。今回の調査では遺物が皆無で、地層の年代観が不明である。当地点の南側には、元亀三年(1572)に移建されたと伝わる式内社「渋川神社」が鎮座しているが、当地一帯は現在のところ考古学的な調査が実施されておらず、今後の調査の累積を要する。
(岡田)



第20図 地層断面図(S=1/100)

13 太田遺跡(2003-277)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設工事に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市太田新町2丁目95番地
3. 調査期間：平成15年12月4日
4. 調査方法：建設予定地内の北部に1箇所(第1区)、中央部に1箇所(第2区)の2箇所の調査区を設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+約11.3m)下約1.3mまでの掘削を行った。
5. 調査概要：両調査区ともに現地表下0.9m前後は既存の工場建設時の盛土(第0層)、第1層-N2/0黒色シルト(近・現代の耕作土)、第2層-5Y4/2灰オリーブ色砂疊混じりシルト(近世の整地層と思われる)、第3層-2.5Y5/4オリーブ褐色シルト(水成層)が堆積する。遺物は、第2・3層から近世に比定される土器類および陶磁器の破片が少量出土したが、遺構は確認されなかった。
- 6.まとめ：本調査地は太田遺跡の北西端にあたるところで、付近における既往の調査では北側の木の本遺跡となる八尾飛行場内の空港整備に伴なう一連の調査がある。これらの調査では、T.P.+8~9m付近で平安時代~近世にかけての条里遺構が検出されている。今回の調査は、その深度まで達するものではないが、近・現代の耕作土層の存在状況から見て、近世にあたる条里遺構の存在が想定される。

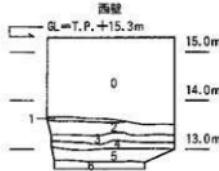


第21図 地層断面図(S=1/100)

(岡田)

14 大竹西遺跡(2003-41)の調査

1. 調査名：店舗建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市楽音寺1丁目140、141、142
3. 調査期間：平成15年8月13日
4. 調査方法：規模約3.0×2.0m、面積約6.0m²1箇所について、現地表下2.7m前後までを調査した。なお、調査におけるレベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載されているレベル高値(調査地の東を南北にはしる旧国道170号線の：T.P.+15.3m)を使用した。
5. 調査概要：今回の調査地は、最近まで水田として利用されていたよう、調査地の東隣を南北に走る旧国道170号線よりも約1.3m低い。したがって、発削開始レベルはT.P.+14.030m前後である。



第22図 地層断面図(S=1/100)

(橋口)

現地表下1.7m前後までは客土・盛土(0層)。以下現地表下2.7m前後までの1.0m間で6層の地層を確認した。1層は、暗オリーブ灰色シルト質粘土。水田耕作土である。2層は、細粒砂～粗粒砂のブロックが混在する黄褐色シルト質粘土である。整地層の可能性が考えられる。3・4層は、にぶい黄褐色粘土質シルト～シルト。酸化が著しいが、地層はあまり汚れた印象を受けない。5層は、灰色細疊混シルト～中粒砂。2~3cm大のブロックで形成された地層である。6層は灰色～灰オリーブ色板粗粒砂～細疊混シルト～極細粒砂。非常に硬い地層である。検出遺構・出土遺物はなし。

6.まとめ：今回の調査では、遺構の検出・遺物の出土は皆無であった。しかしながら地層を観察すると、5層や6層のようにブロックで形成された地層が存在することから、これらの地層を平面的に追いかけていけば、遺構が検出される可能性が高い。なお、本調査地の南東約120mでは、八尾市教育委員会による遺構確認調査が実施されており、その結果、弥生時代後期の遺物を含む土坑をはじめ、古墳時代後期の鏡塚古墳に關連する可能性を秘めた溝を検出している(酒井1993)。したがって、本調査地においてもこの時代の遺構が検出される可能性を否定できない。

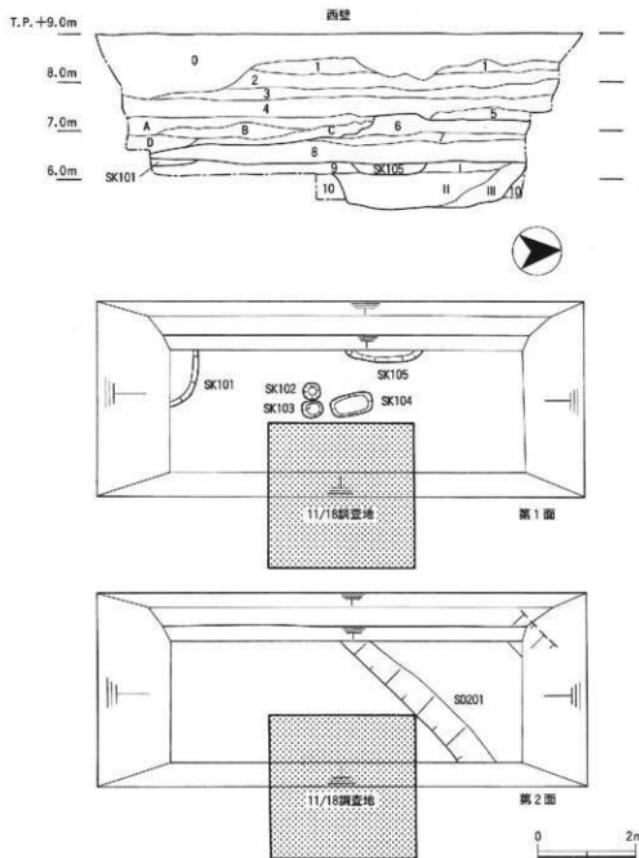
参考文献

- ・酒井 1993「11. 大竹西遺跡(92-063)の調査」『八尾市内遺跡平成4年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告27 平成4年度国庫補助事業 八尾市教育委員会

15 亀井遺跡(2003-178)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市南亀井町2丁目20,22,23,24番
- 調査期間：平成15年11月18日 12月9・10日

4. 調査方法：調査対象となるのは防火水槽部分である。水槽位置の一部に3m四方の調査地を設定し、工事の深さである現地表下約4.0mまでの調査を11月18日に実施した。その結果、T.P.+6.0~7.5mで、弥生時代中期～後期にかけての遺物を含む地層を確認した。このことから、水槽部分全体（南北10m×東西4m 面積40m²）の調査を実施することとなった。なお、掘削の深さが4m前後と深いため、壁面の崩壊を防ぐ対策として、西壁には現地表下約1.5~1.7m付近で幅約0.4m程度の平坦部をつけ、さらに下を掘削することとした。また、壁面については全体的に傾斜を緩くした。今回の調査では調査地北西



第23図 地層断面図・平面図(S=1/100)

側にある工事に使用している値（調査地の北西側T.P.+10.020m）を使用した。

5. 調査概要：現地表下約3.6mまでに10層の堆積を確認した。0層は盛土で、現地表面はT.P.+10.4～10.6m前後を測る。1層5B6/1青灰色細粒砂混粘土、2層5G6/1緑灰色粗粒砂混粘土、3層10BG4/1暗青灰色粘土、4層10BG5/1青灰色粘土質細粒シルト、5層7.5YR4/2灰褐色細粒砂混粘土で、マンガン斑が多く見られる。6層N2/0黒色粗粒砂混粘土で弥生時代中期～後期の遺物が出土した。7層5B3/1暗青灰色粘土で炭化物含む、8層10YR1.7/1黒色細粒シルト混粘土で炭化物を多量に含んでおり、中期～後期の遺物が出土した。9層5B5/1青灰色粘土質細粒シルト、10層5BG6/1青灰色粘土質細粒シルト。

6層上面では、河川堆積を確認したが、面的な検出は行ってないため、規模などの詳細は不明である。河川の埋土はA 5G6/1緑灰色粘土質粗粒シルト、B 7.5YR6/2灰褐色粗粒砂、C 5B6/1青灰色粘土質細粒シルト、D 5B4/1暗青灰色粘土（植物遺体含む）で、時期は中世以前と思われる。

9層上面からは弥生時代中期後半の土坑5基（SK101～105）、10層上面からは弥生時代中期前半の溝（SD201）を検出した。

SK101：調査地西側で検出した。遺構の南西側が調査区外に至るため平面形状は不明である。検出した深さは0.15mを測る。埋土は10YR2/1墨色粗粒砂混粘土で、弥生時代中期後半頃の土器が出土した。このうち圓化し記載したものは壺（1～3）、甕（4）、高杯（5）である。1の口縁と体部には簾状文を施す。2は垂下する口縁部で、外面には凹線文を施した上に円形浮文を施す。3は突出する底部で、底面は平行線状に密にミガキを施す。5はハの字にひらく裾部で、端部は外上方につまみ出し面をもつ。外面は縱方向のミガキが丁寧に施される。

SK102：調査地ほぼ中央で検出した。平面形状は円形で径0.35mを測る。断面形状は逆台形で、深さは0.15mを測る。埋土は7.5YR3/1黒褐色粘土で、弥生時代中期後半頃の土器が出土した。このうち圓化し記載したものは壺（6）である。6は外反する口縁部で、端部は面をもち、横描直線文を施す。内面に指頭圧痕が残る。

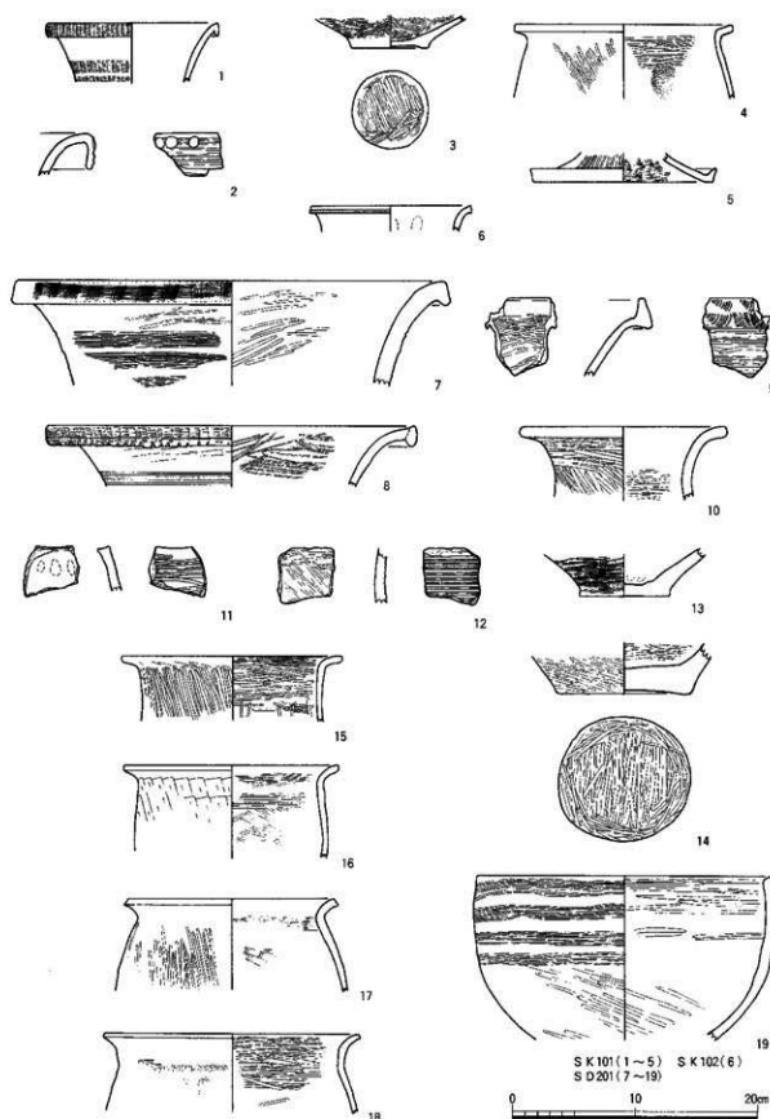
SK103：SK102の東側で検出した。平面形状は円形で径0.4mを測る。断面形状逆台形で、深さは0.18mを測る。西側には柱を抜き取った痕跡が確認できた。埋土はN3/0暗灰色粘土で、炭化物含む。弥生時代中期後半頃の土器が出土した。出土した遺物は細かい破片で圓化できなかった。

SK104：SK103の北側で検出した。南北方向に長い楕円形で、長径0.8m、短径0.8mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さ約0.1mを測る。埋土は10YR2/1黒色粗粒砂混粘土である。弥生時代中期後半頃の土器が出土した。出土した遺物は細かい破片で圓化できなかった。

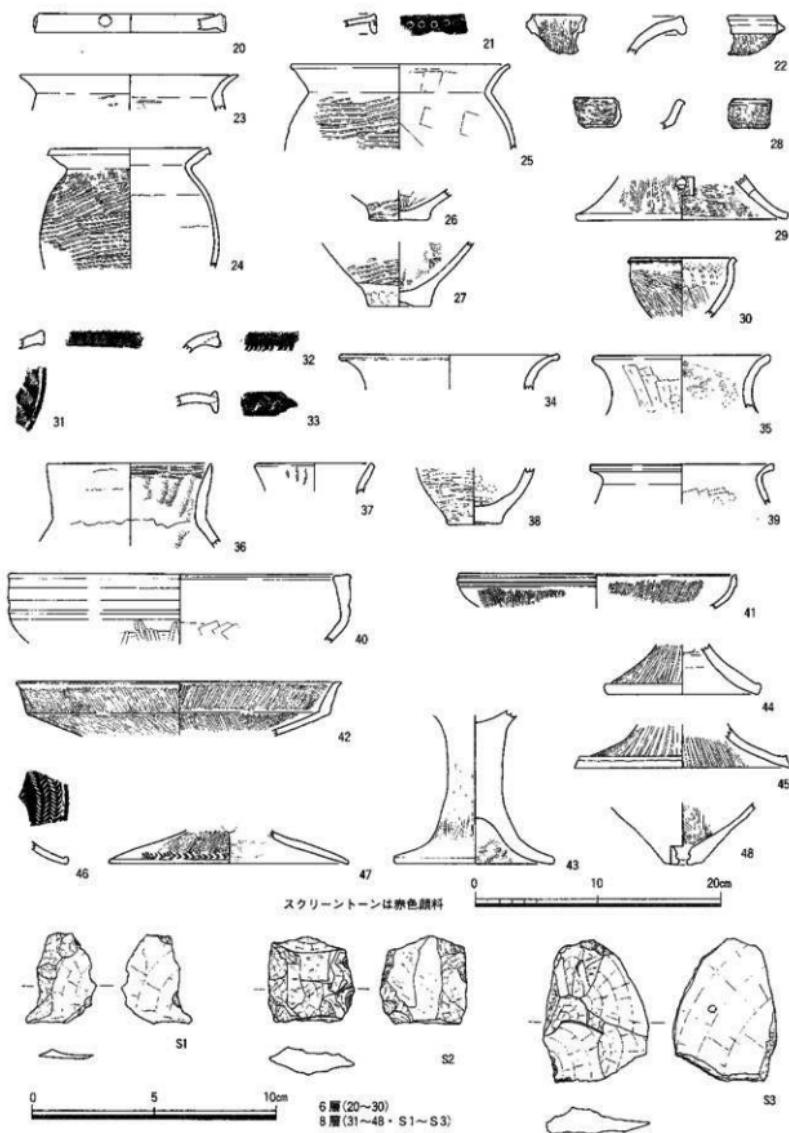
SK105：SK104の北西側で検出した。遺構の西側は調査区外に至るため遺構の規模は不明である。深さ約0.15mを測る。埋土は10YR2/1黒色粘土で、植物遺体を含む。遺物の出土はなかった。

SD201：調査区北側で検出した。南西～北東方向に伸びる。幅約3.0m、断面形状は逆台形で、深さ約0.75mを測る。埋土は上からI層N2/0墨色細粒砂混粘土、II層7.5YR1.7/1黒色粘土、III層5B2/1青黑色細粒シルト混粘土である。II層からは弥生時代中期中頃の土器や石器、獸骨などが多く出土した。このうち圓化し記載したものは壺（7～14）、甕（15～18）、鉢（19）である。7～11は口縁部で、7の口縁部には直線文を横方向に施したのちほば等間隔で縱方向に直線文を施す。体部外面には直線文を3条+a施す。外面ミガキ。8の口縁端部はキザミ目があり、簾状文を施す。頸部から口縁部にかけての外面には粘土を折り曲げた時にできた凹凸がある。9は上下に拡張する口縁部で、端部に列点文と扇形文を施す。体部外面には直線文を施す。11は無頸壺で、外面に直線文を施す。12は前期の壺の頸部で、外面には多条沈線（10条+a）を施す。14は突出する底部で、底面には平行線状にミガキを施す。15は水平近くまで折れ曲がる口縁部で、端部は丸く終わる。体部外面は縱方向のミガキ、内面上位横方向ミガキを施す。16は外反する口縁部。体部外面はケズリ、内面ハケを施す。17は「く」の字に折れ曲がる口縁部で、端部は面をもつ。18は外反する口縁部。外面ハケ、内面横方向のミガキを施す。19は椀形の体部。口縁部は内湾する。外面に4条の直線文を施す。

第6層からは弥生時代中期～後期の土器（20～30）が出土した。20～22は後期の壺。20は口縁部に面



第24図 SK 101・SK 102・SD 201出土遺物実測図(S=1/4)



第25図 第6層・第8層出土遺物実測図(土器S=1/4石器S=1/2)

をもち円形浮文を貼り付ける。口縁部内面には部分的に赤色顔料を塗布している。21の端部には円形竹管押印文を施す。22の端部には凹線を施す。23～27は後期の甕。23～25は「く」の字に折れ曲がる口縁部で、体部外面に右上がりのタキを施す。26・27は突出する底部。外面はタキを施す。28は高杯の口縁部で、内外面丁寧にミガキを施す。29は高杯の裾部で、内面はハケ、外面ミガキを施し、凹孔がある。30は後期の鉢で、体部内面は丁寧にナデしており、指頭圧痕が部分的に残る。外面は左上がりのミガキを丁寧に施している。体部外面には部分的に赤色顔料を塗布している。また体部から口縁部にかけての内面にも部分的に赤色顔料を塗布している。

第8層からは弥生時代中期～後期の土器（31～48）石器（S1～S3）が出土した。31～33は中期の甕の口縁部。31は端面に波状文、口縁部下面に扇形文を施す。32は端面にキザミ目を施す。33は端面に扇形文を施す。34～38は時期の特定はできないが器種は壺とおもわれる。34・35は外反する口縁部、36・37は直立ぎみに外側へひらく口縁部をもつ。38は丸みのある体部で、底部は突出する。39はくの字に曲がる口縁部をもつ中期の甕で、端部には凹線状のくぼみが1条確認できる。40・41は中期の高杯で、口縁部外面に凹線を施す。42は後期の高杯の口縁部で、内外面ともにミガキを丁寧に施す。43は高杯の脚部から裾部、44～47は高杯の裾部で、時期は中期から後期のものと思われる。46と47の外面には列点文が施されている。48は底部有孔土器である。S1～S3はサスカイトの石である。S2は折れているため本来の形状はわからないが、断面が菱形に近いことから石剣である可能性が高いと考える。

6.まとめ：今回の調査で検出した弥生時代中期中頃と中期後半の遺構は、約50m南西側にある財团法人大阪文化財センター（現 財團法人大阪府文化財センター）が行った寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事に伴う発掘調査でも確認している。このことから、同時期の遺構は北東へ広がっていることが明らかになった。また、後期の遺構の検出はできなかったが、同時期の遺物を含む地層【6層・8層】を確認したことから、後期の遺構も存在していた可能性が高いと思われる。（岡田・西村）

参考文献

- ・中西靖人他 1982『龜井遺跡 寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』（財）大阪文化財センター

16 木の本(2003-131)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市南木の本5丁目62番1・2

3. 調査期間：平成15年9月12日

4. 調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0mの調査区を3箇所設定し調査を行った。南から第1区～第3区と呼称する。レベル高は、八尾市発行の1/2500の地図に記載している標高値（調査地の西側道路上T.P.+10.8m）を使用した。

5. 調査概要：調査は、現地表下約1.3mまで機械掘削と人力掘削を併用し実施した。現地表面はT.P.+10.8～10.9mを測る。

【第1区～第3区】1層は10YR4/4

褐色中疊混粘土上に、コンクリートブロックなどが混じる盛土である。

6.まとめ：地表面から1.3m前後までは盛土で、遺構の検出および遺物の出土はなかった。（西村）



第26図 地層断面図(S=1/100)

参考文献

- ・西村公助 1991「VI 木の本遺跡(第4次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告書』（財）八尾市文化財調査研究会報告32（財）八尾市文化財調査研究会

17 久宝寺遺跡(2003-34)の調査

1. 調査名：共同住宅建築に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市大字渋川

3. 調査期間：平成15年5月9・12・13・14・19日

4. 調査方法：建築予定地内に3m四方の調査区7区を設定した(南西から第1～7区)。掘削深度は建物予定地の第1～3・5・6区は地表下3m(T.P.+6.8m前後)まで、駐車場予定地の第4・7区は地表下2m(T.P.+7.0m前後)までである。このうち、第2区は中層掘削中に崩壊したため、盛土範囲までしか確認していない。高さの基準は調査地南30mの基準点(T.P.+9.5m)から移動した。

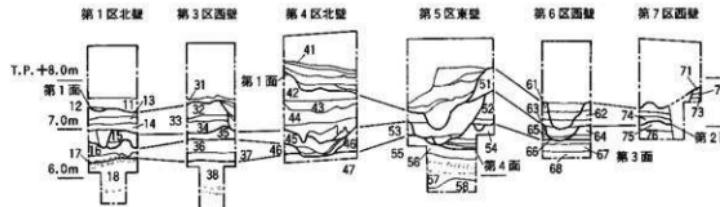
5. 調査概要：調査地の地表面はT.P.+9.5～9.9m、盛土の厚さは第4・5区が0.6m、第1・2・6・7区が1～1.2m程度である。各調査区とも盛土・旧耕土以下に近世の遺構(第1面)が捉えられ、以下、概ね4面の遺構面が確認することができた。

第1面は島畑・水田からなる旧地形で、上面の高さはT.P.+8.3～8.9mを測り、起伏に富んでいる。第2面は島畑のベースを構成する疊混砂質シルト上面で、T.P.+8.0m前後を測る。第3面はT.P.+7.7m前後の粘土質シルト上面、第4面はT.P.+7.5m前後の砂質シルト～極細粒砂上面である。それ以下は、第1・4・6区では厚い粘土質シルトを主として極細粒砂や植物遺体を含む地層、第2・3・5区では極細粒砂～粗砂からなるラミナが認められた。

それ以下は第1・4・6区で厚い粘土質シルトを主として極細粒砂や植物遺体を含む沼沢地上の堆積、第2・3・5区では埋没河川の堆積状況を示す極細粒砂～粗砂からなるラミナが認められた。

6.まとめ：周辺の調査成果と照合すれば複数の遺構面が存在することは明らかである。調査区が狭く、出土遺物も少ないため、時期の確定は困難であるが、近隣の調査成果を勘案すれば、概ね以下のようになるものと考えられる。第1面～平安時代末期～江戸時代、第2面～奈良時代～平安時代前半、第3面～古墳時代中期～奈良時代、第4面～古墳時代前期～中期。

(成海)



- 第1区
 11 5862/1青黒色・5865/1青色疊混砂質シルトのブロック
 12 5862/1青黒色粘土質シルト
 13 5865/1青色疊混砂質シルト
 14 5867/1明黄色疊混砂質シルト
 15 5865/1オリーブ色疊混砂質シルト
 16 10YR5/4cにぶい黄褐色粘土質シルト
 17 2,5Y6/4cにぶい黄色粘土質シルトと植物遺体の互層
 18 5865/1青灰色粘土質シルト～極細粒砂に植物遺体の互層
 第3区
 31 10YR5/4cにぶい黄褐色疊粘土質シルト
 32 10YR5/4cにぶい黄褐色粗粒砂混砂質シルトのブロック
 33 10YR5/4cにぶい黄褐色砂質シルトと粘土質シルトのブロック
 34 10YR5/3cにぶい黄褐色粗粒砂に粘土質シルトのブロック
 35 10YR5/3cにぶい黄褐色疊混砂質シルト
 36 5864/1緑青灰色粘土質シルト～基礎に粘土質シルトのブロック
 37 5862/1青黒色粗粒砂混砂質シルト
 38 5864/1緑青灰色粘土質シルト～極細粒砂～礫の互層
 第4区
 41 10YR6/4cにぶい黄褐色粘土質シルト
 42 5864/1青黒色粗粒砂混砂質シルトのブロック
 43 5864/1緑青灰色粘土質シルト
 44 5863/1緑青灰色粗粒砂～礫混砂質シルト
 45 10YR5/2c～粗粒砂(第4面構造埋土)
 46 7,5Y6/1灰色疊混砂質粘土質シルト
 47 5864/1緑青灰色粘土質シルト
 (礫構造土は省略)
- 第5区
 51 10YR5/4cにぶい黄褐色疊粘砂混砂質シルトと10YR5/2灰黄褐色砂質シルト・礫ブロック
 52 2,5Y6/3cにぶい黄褐色粘土質シルト
 53 7,5Y5/2cオリーブ色疊粘砂混砂質シルト
 54 10YR5/3cにぶい黄褐色疊粘砂混砂質シルト
 55 10YR5/3cにぶい黄褐色粘土質シルト
 56 5867/1明黄色疊粘砂質
 57 N-8灰色粘土質シルトとN-7灰白色疊粘砂の互層
 58 5866/1青灰色粘土
 第6区
 61 N-4灰色粘土質シルト
 62 10YR7/1明緑色疊粘砂混砂質シルト
 63 2,5Y7/1明緑色疊粘砂混砂質シルト
 64 5868/1灰白色砂質シルト
 65 10YR5/3cにぶい黄褐色粘土質シルト
 66 N-7B白色疊粘砂混砂質粘土
 67 N-7灰白色砂質シルト
 68 N-5灰色粘土質シルト
 第7区
 71 N-4灰色粘土質シルト
 72 10Y7/1明緑色疊粘砂質粘土
 73 10Y9/1緑灰色粘土質粘土
 74 10Y7/1明緑色粘土質シルト
 75 10Y8/1明緑色疊粘砂質粘土
 76 2,5Y8/1灰白色疊粘砂質粘土

第27図 地層断面図(S=1/100)

18 久宝寺遺跡(2003-305)の調査

1. 調査名：事務所建設に伴う造構確認調査
2. 調査地：八尾市北久宝寺3丁目10番
3. 調査期間：平成15年12月2日
4. 調査方法：防火水槽部分(第1区)に約3×3m、建物基礎部分(第2区)に2.0×2.0mの調査区2箇所を設定し、現地表下1.7mまでの地層の確認を行った。

5. 調査概要：第1区では現地表下約1.7m(T.P.+6.8m前後)まで掘削を行ったが、すべて盛り土内であり、旧地層を確認することはできなかった。この結果と、周辺地形の状況から見て調査地の全体が盛土されているようであり、第2区については第1区より工事掘削深度が浅いことから掘削を中止した。

6.まとめ：調査の結果、現地表下1.7m(T.P.+6.8m)前後の地層について、調査地及び周辺地(中央環状線沿い)は、全体に盛り土を行っていることがわかった。
(高萩千秋)



第28図 地層断面図(S=1/100)

19 郡川遺跡(2002-304)の調査

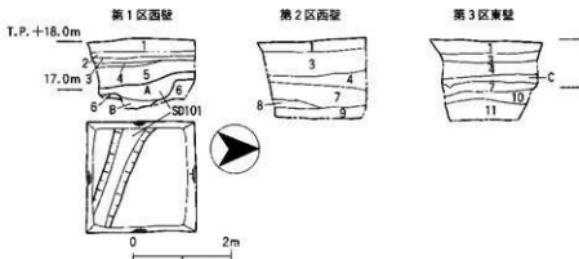
1. 調査名：特別養護老人ホーム建設工事に伴う造構確認調査
2. 調査地：八尾市郡川3丁目80、81
3. 調査期間：平成15年9月26日
4. 調査方法：調査地内に2.0×2.0mの調査区を3箇所設定し、北から第1～3区と称した。掘削は現地表(T.P.+18m前後)下約1.5mまで実施した。
5. 調査概要：調査地の現況は畑作地で、現地表から0.3m前後は近・現代の作土層(第1層)となっている。以下、各調査区の様相を記述する。

【第1区】第1層の作土層を排除すると、3層(第2～4層)に分層できる0.3m前後のシルト層が堆積する。遺物は含まれない。次の第5層はやや堅く締まった黒褐色を呈する砂礫混じりシルトで、時期不明の上師器片が少量含まれる。そして、その下層にあたるA層を掘削したところ、本層が次の第6層上面(T.P.+17m前後)から切り込まれる造構内埋土であることが判明した。そこで、第6層上面において精査を行った結果、北西～南東方向に伸びる弥生時代後期に比定される溝1条(S D101)を検出した。規模は幅0.6～0.7m、深さ0.5m前後を測る。埋土は上層(A層)～N2/0黒色粘土質シルト、下層(B層)～N3/0暗灰色シルトの2層に分層できる。遺物は上層から畿内第V様式に比定される壺の体部片をはじめ、小破片が少量出土した。

【第2区】現地表下1m前後(T.P.+17m前後)までは第1区とほぼ同じ様相を呈するが、それ以下の約0.7m間は砂質シルト～疊層で構成される水成層となり、湧水も著しい。

【第3区】本調査区も現地表下0.7m前後までは第1・2区とほぼ同じ様相を呈する。しかし、次のC層は0.15m前後を測る堆積層で、古墳時代前期の古式土師器片が若干含まれ、全体に土壌化が窺える。それより約0.9m間は第2区とよく似た層序で、砂質シルト～疊層の水成層となる。

6.まとめ：第1区では弥生時代後期の遺構が顕著に確認できたが、南側に近接する第2区および第3区では同レベル(T.P.+17m前後)で、水成層という河川堆積を想定させる地層を検出した。この要因としては、当地が扇状地に位置していることが挙げられる。次に、第3区で検出した古墳時代前期の包含層とその下層に堆積する水成層について第1区との調査成果と勘案すると、弥生時代後期以降の洪水等が治まり安定した土地条件下において、古墳時代前期の生活面が築かれたことが推測される。（岡田）



第29図 地層断面・平面図(S=1/100)

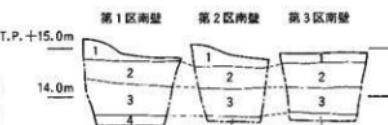
20 郡川遺跡(2003-219)の調査

- 調査名：宅地造成に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市教興寺1丁目38番地
- 調査期間：平成15年10月1日
- 調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0mの調査区を3箇所設定し調査を行った。北側から第1区～第3区と呼称する。今回の調査地では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南西側道路上T.P.+15.0m）を使用した。

- 調査概要：現地表下約1.8mまで機械と人力を併用し掘削した。その結果、4枚の堆積を確認した。1層は盛土で、上面はT.P.+14.8～15.2mを測る。2層は7.5Y4/6褐色粘土質粗粒シルト、3層は10YR4/4褐色細粒シルト～細粒砂、4層は10YR3/3暗褐色粘土で、2層と3層は、流水堆積である。
- まとめ：流水を示す堆積を確認したが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。（西村）

参考文献

- 原田昌則 1999「III 郡川遺跡(第2次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告64』(財)八尾市文化財調査研究会



第30図 地層断面図(S=1/100)

21 佐堂遺跡(2003-291)の調査

- 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市佐堂町2丁目16番3・17番3
- 調査期間：平成15年11月12日

4. 調査方法：建物基礎部分に規模2.0×2.0mの調査区を2箇所の設定し調査を実施した。東側を第1区、西側を第2区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南東側道路上T.P.+8.0m）を使用した。

5. 調査概要：【第1区・第2区】現地表下約2.2mまでに7層の堆積を確認した。1層は盛土で、現地表面はT.P.+8.2m前後を測る。2層は10BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土の旧耕作土である。3層は5Y4/1灰色細粒砂混粘土、4層は10YR4/4褐色粘土質細粒シルトで、4層上面から切り込む遺構【埋土A10YR6/8明黄褐色粗粒砂】を第2区の南壁で確認したが、遺物の出土はなかった。5層は10YR6/1褐色細粒シルト質粘土で、上面は土壤化しており、層内からは瓦器鉢（1）の破片が出土した。上面で調査を行ったが遺構の検出はなかった。6層は10YR5/2灰黃褐色粘土質細粒シルト、7層は5Y6/1灰色細粒砂と粗粒シルトのラミナで流水堆積である。また、両調査区では、縦に伸びる砂層【10YR7/1灰白色細粒砂】を確認した。

6. まとめ：第2区の南壁では4層上面から切り込む遺構を確認したが、遺物の出土がなかったため、詳しい時期は不明である。しかし、下層の5層内から瓦器鉢の破片が出土していることから、4層上面検出遺構は中世以降のものである可能性が高いと考える。また、縦に伸びる砂層は、地震時の液状化による砂脈と思われ、時期は近代以前と推定される。
(西村)

参考文献

- 原田昌則 1996「13. 佐堂遺跡(第1次調査)」「平成7年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会

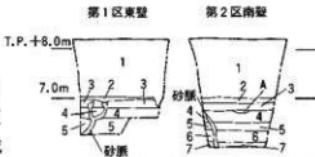
22 太子堂遺跡(2003-72)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市南太子堂4丁目81番及び80番2の一部

3. 調査期間：平成15年6月5日

4. 調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0mの調査区を4箇所設定し調査を行った。南西側を第1区・北西側を第2区・北東側を第3区・南東側を第4区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の北側道路上T.P.+9.8m）を使用した。

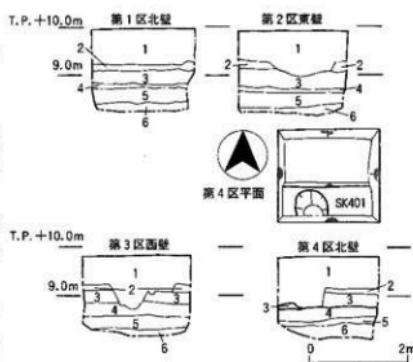
5. 調査概要：第1区～第4区では、現地表下約1.6mまでに6層の堆積を確認した。1層は盛土。2層はN2/0黒色粗粒砂混粘土で、旧耕作土である。3層は5BG5/1青灰色粗粒砂混粘土～2.5Y5/2暗灰黄色細粒シルト質粘土で、礫がまばらに混入する。4層は2.5Y6/1黄灰色粗粒シルト質粘土で、



第31図 地層断面図(S=1/100)



第32図 出土遺物実測図(S=1/4)



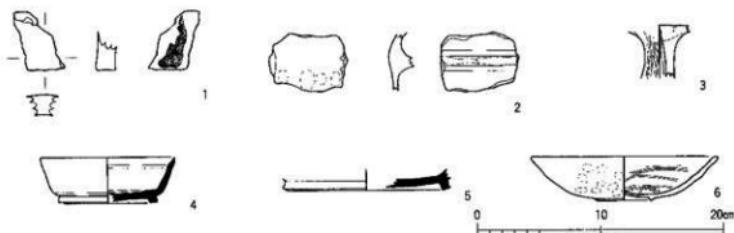
第33図 地層断面図・平面図(S=1/100)

第3区と第4区では遺物が出土している。5層は10YR4/6褐色細粒砂混粘土で、第1区と第2区では遺物が出土している。6層は10YR4/1褐色細粒砂～7.5YR7/1明褐色細粒シルトの水成層である。【第1区】遺構の検出はなかったが、第5層からは丸瓦(1)が出土した。1は凸面に布目を施す。【第2区】遺構の検出はなかったが、5層からは土師器の羽釜(2)が出土した。また、上げ土内からは土師器の高杯(3)・須恵器の杯(4・5)の破片が出土した。【第3区】4層からは土師器の破片が出土した。【第4区】4層上面で土坑1基(S K401)検出した。S K401の規模は、長径0.6m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は10YR4/2灰黄褐色細粒砂混粘土で、鎌倉時代初頭頃の瓦器碗(6)が出土した。6は断面三角形の高台がつく。内面にはミガキを施す。見込みのミガキは平行線状である。

6.まとめ：第4区では鎌倉時代の遺構を検出したことから、同時代の居住域が存在していたことが判明した。また、各調査区で確認した地層のうち、T.P.+8.3～8.8mに存在する地層については搅拌をうけており、特に第1区では瓦の破片が、第2区では地層の特定はできないものの奈良～平安時代頃に比定できる須恵器の破片が出土していることから、同時代の遺構の存在が示唆される。
(西村)

参考文献

- ・或海佳子 2000「X太子堂遺跡(第9次調査)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告65』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助 2000「IV太子堂遺跡(第7次調査)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告66』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 2000「VI太子堂遺跡(第8次調査)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告66』(財)八尾市文化財調査研究会



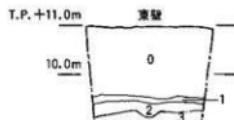
第34図 出土遺物実測図(S=1/4)

23 田井中遺跡(2003-224)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市田井中2丁目48番の1
- 調査期間：平成15年10月14日
- 調査方法：調査地内に2.0×2.0mの調査区を3箇所設定し、北から第1～3区と称した。掘削は現地表(T.P.+18m前後)下約1.5～2.0mまで実施した。

5.調査概要：第1・2区ともに現地表(T.P.+11.0m)下約2.0mまで、現代の産業廃棄物によって搅乱されている(第0層)。第3区については現地表下1.5m前後で層厚0.1m前後を測る近・現代の作土層(第1層)、第2層-5B5/1青灰色シルト(水成層)、第3層-10BG4/1暗青灰色粘土質シルトとなる。本調査では遺構・遺物の検出はなかった。

6.まとめ：今回の調査地点付近においては既往の調査例がなく、考古学的に未解明な地帯である。したがい、今後周辺における調査の累積を要する。
(岡田)



第35図 地層断面図(S=1/100)

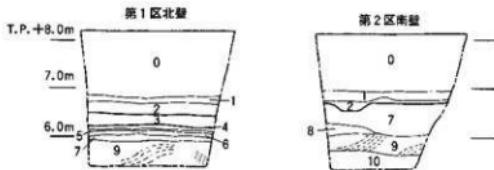
24 東郷遺跡(2003-50)の調査

1. 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市光町2丁目39
3. 調査期間：平成15年5月14日
4. 調査方法：調査地東部に2.5×2.5mの調査区を2箇所(北側—第1区、南側—第2区)を設定し、現地表(T.P.+8.2m前後)から約2.5mの掘削を実施した。なお、調査地内には既存の建物基礎(コンクリート等)が盛土下に部分的に残存しており、とくに西部においては掘削不能な関係から今回は東部を中心で遺構確認調査を実施することとなった。
5. 調査概要：【層序】第0層—盛土および搅乱(層厚0.5m前後を測る盛土の下層には、既存建物基礎およびその建設時に伴う搅乱が層厚0.5m前後堆積する)、第1層—5B3/1暗青灰色シルト(近・現代の耕作土にあたる)、第2層—7.5YR7/4にぶい橙色シルト(下層の第3層とともに酸化鉄分を多量に含む)、第3層—7.5YR3/3暗褐色シルト(管状のマンガンが確認できる)、第4層—10YR4/3にぶい黄褐色シルト、第5層—N3/0暗灰色粘土質シルト(植物遺体がラミナ状に見られる)、第6層—7.5YR5/6明褐色粗粒砂(第2区には存在しない。本層以下第10層までは河川あるいは氾濫に伴なう堆積層となる)、第7層—7.5YR7/1明褐色細粒砂、第8層—7.5YR7/3にぶい橙色砂質シルト(第2区にブロック状に堆積する)、第9層—5YR8/1灰白色細粒砂(ラミナが顕著に認められる)、第10層—5YR6/1褐色中粒砂～粗粒砂(第1区では、本層まで掘削が達せず確認はできなかった)。

6. まとめ：今回の調査結果と、当地点の南側において昭和60年度に実施された調査(T.G.85-20)成果とを層位的に照合すると、第2層が中世末期～近世、第3層が古墳時代前期～中世に比定されるものであることが言える。南側の調査においては、第6層あるいは第7層といった水成層上面で、古墳時代前期の方形周溝墓7基、土壙墓1基といった墓域が検出されている。今回の調査地点では遺構および遺物を検出することはできなかったが、第1区で確認した第3層にあたるところが、当該期の堆積層であると推測される。第7～9層に見られた氾濫性の砂層の堆積から勘案すると、当地一帯においては古墳時代前期頃にそれまでの不安定な土地条件から安定した地盤となって以降、集落が営まれるようになることが考えられる。それはまた、当地周辺における既往の調査成果からも窺うことができる。(岡田)

参考文献

- ・原田昌則 1987「III 東郷遺跡(第20次調査)発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和61年度』
(財)八尾市文化財調査研究会報告13 (財)八尾市文化財調査研究会



第36図 地層断面図(S=1/100)

25 東郷遺跡(2003-40)の調査

1. 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市光町2丁目16, 17

3. 調査期間：平成15年6月16日

4. 調査方法：建物基礎部分に規模 2.5×2.5 mの調査区を2箇所設定し調査を行った。北側を第1区、南側を第2区と呼称した。レベル高は、調査地の北東約100mにある大阪府下水道の標高値(T.P.+7.908m)を使用した。

5. 調査概要：現地表下約1.7mまで機械と人力を併用し掘削した。北側を第1区、南側を第2区と呼称する。上面はT.P.+7.2m前後を測る(なお、今回の調査地の南側道路上はT.P.+7.434mを測る。)。

以下約1.7mまでに5層の堆積層を確認した。1層は盛土。2層は7.5Y5/2灰褐色粘土質細粒シルトで、N5/0灰色粘土のブロックが混じる。3層は10YR6/1褐色粘土質細粒シルトである。4層は10YR4/6褐色粘土。5層は10YR4/1褐色粘土である。【第1区】T.P.+6.0m前後の2層上面で土坑1基(S K101)を検出した。SK101の西側は調査区外に至るため規模などの詳細は不明である。検出した長径は0.4m、短径は0.2m、深さ0.15mを測る。埋土は10YR3/3暗褐色細粒砂混粘土で、10YR5/6褐色粘土のブロックが混じり、炭を含んでいる。古墳時代初頭～前期(庄内式～布留式)の古式土師器の破片が少量出土した。1は弥生土器のV様式系の壺である。表部磨耗の為調整不明瞭であるが、内面はハケ、外面はタキを施していたと思われる。

【第2区】T.P.+6.0m前後の2層上面で土坑1基(S K201)、溝1条(S D201)を検出した。

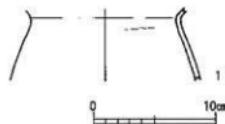
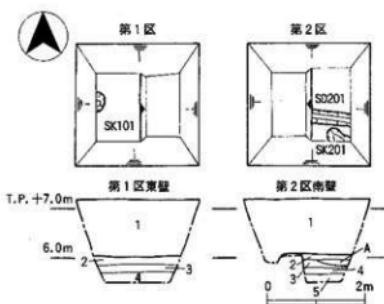
S K201の南側は調査区外に至るため規模などの詳細は不明である。検出した長径は0.5m、短径は0.3m、深さ0.15mを測る。埋土は10YR4/4褐色粗粒シルト質粘土で、N4/0灰色粘土のブロックが混じり、炭を含んでいる。古墳時代初頭～前期(庄内式～布留式)の古式土師器の破片が少量出土した。

S D201の東側と西側は調査区外に至るため規模などの詳細は不明である。検出した幅は0.3m、深さ0.15mを測る。埋土は2.5Y4/6オリーブ褐色細粒砂混粘土で、10YR4/4褐色粘土のブロックが混じる。古墳時代初頭～前期(庄内式～布留式)の古式土師器の破片が少量出土した。

また、この調査区では3層上面から切り込む落ち(遺構？埋土2.5Y4/2暗灰黄色粘土上にN4/0灰色粘土のブロックが混じる)を南壁で検出した。調査外に至るため遺構の詳細は不明である。検出した地層から、古墳時代初頭以前の遺構である可能性が高いと考えられる。

6.まとめ：今回の調査ではT.P.+6.0m前後で古墳時代初頭～前期の遺構を検出した。各遺構は部分的な検出であり、全容は不明である。しかし、東隣や西隣で行われている過去の調査で検出している遺構と同じ時期の遺構を検出したことから、今回の調査地は居住域であった可能性がある。

(西村) 第37図 地層断面図・平面図(S=1/100)



参考文献

- 森本めぐみ 2003「I 東郷遺跡第56次調査(TG2000-56)」「八尾市立埋蔵文化財調査センター報告4 平成14年度」八尾市教育委員会 (財)八尾市文化財調査研究会
- 高萩千秋 1983「第8章 東郷遺跡発掘調査概要報告 第7節 第8次調査」「八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980-1981年度」(財)八尾市文化財調査研究会報告2 (財)八尾市文化財調査研究会
- 高萩千秋 1989「I 東郷遺跡発掘調査報告(第11次～第16次・第18次調査)」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 昭和63年度」(財)八尾市文化財調査研究会報告17 (財)八尾市文化財調査研究会

26 東郷遺跡(2003-234)の調査

- 調査名：個人住宅建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市東本町4丁目15-8
- 調査期間：平成15年10月28日
- 調査方法：半地下基礎部分（規模 $2.5 \times 2.5\text{m}$ 面積 6.25m^2 ）の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の東側道路上T.P.+8.0m）を使用した。

5. 調査概要：現地表下約1.9mまで機械と人力を併用し掘削を行い、6枚の堆積層を確認した。1層は盛土で、上面はT.P.+7.9m前後を測る。2層は5B2/1青灰色細粒砂混粘土で旧耕作土である。3層は10BG2/1青灰色粗粒砂混粘土。4層は10BG6/1青灰色粘土で、N2/0黒色粘土のブロック混入している。上面は擾拌を受けるが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。5層は5B3/1暗青灰色シルト質粘土、6層は5B6/1青灰色細粒シルトである。

6.まとめ：T.P.+6.5m前後の4層は、周辺の調査結果から、古墳時代以降の耕作に伴うものである可能性が高いと考える。
(西村)

参考文献

- 西村公助 1995「IV 東郷遺跡(第46次調査)」「東郷遺跡 財団法人八尾市文化財調査研究会報告48」(財)八尾市文化財調査研究会



第39図 地層断面図(S=1/100)

27 東郷遺跡(2003-315)の調査

- 調査名：共同住宅建設に伴う遺構確認

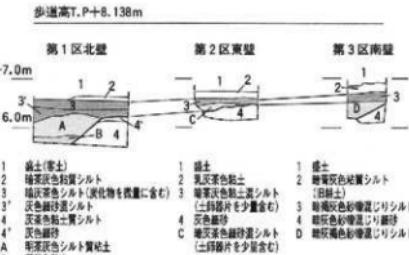
調査

- 調査地：八尾市桜ヶ丘1丁目25番
- 調査期間：平成15年12月1日
- 調査方法：建物建築予定地に約 $2 \times 2\text{m}$ の調査区を3箇所（第1～3区）設定し、道路面（T.P.+8.1m前後）下1.7～2.5m前後までの地層の確認を行った。
- 調査概要：第1区は道路下約2.5m（T.P.+5.6m前後）、第2区は道路下約2.1m（T.P.+6.1m前後）、第3区は道路下約1.7m（T.P.+6.6m前後）までの掘削をそれぞれ行った。その結果、T.P.+6.6mまでは建物基礎により第3区ともすでに削平されていた。確認した第3層は古墳時代前期の遺物を含んだ層で、その下の第4層上面より切り込む遺構を検出した。第1区では溝状遺構、第2区では溝状遺構と柱穴、第3区では溝状遺構を確認した。遺物は第2区より古墳時代前期に比定される布留式甕の体部の小片を出土している。

6.まとめ：調査の結果、T.P.+6.3～7.0mの地層には古墳時代前期の遺構面の存在がすべての調査区で確認された。既往調査では、古墳時代前期に比定される掘立柱建物跡を当調査地の東側で検出されており、居住域が西側にも広がっていることが改めて確認された。
(高萩)

参考文献

- 鶴村友子 1987「東郷遺跡22次発掘調査概要」「八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書II」八尾市文化財調査報告15 昭和61年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- 高萩千秋 1991「第3章 第24次調査」「東郷遺跡－第23次・第24次発掘調査報告一」(財)八尾市文化財調査研究会報告29 (財)八尾市文化財調査研究会



第40図 地層断面図(S=1/100)

28 中田遺跡(2003-203)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う造構確認調査
- 調査地：八尾市中田2丁目43-1
- 調査期間：平成15年10月23日
- 調査方法：人孔部分(規模1.5×1.5m 面積2.25m²)の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南西側道路上T.P.+10.2m)を使用した。
- 調査概要：現地表下約1.0mまでに5層の堆積を確認した。1層は盛土で、2層はN3/0暗灰色粗粒砂混粘土の旧耕作土である。3層は5YR5/2灰褐色粘土質粗粒砂、4層は5Y6/1灰色粘土質細粒シルト、5層は10YR4/6褐色粗粒砂～細粒シルトのラミナで、3層以下は自然堆積である。造構の検出および遺物の出土はなかった。
- まとめ：遺物の出土がなく、時期の決定は困難であるが、周辺において実施された調査成果から3～5層は中世以降の河川内の堆積物であったと思われる。



第41図 地層断面図(S=1/100)

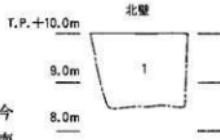
(西村)

参考文献

- 成海佳子 1988「24 中田遺跡(第1次調査)」『八尾市文化財調査研究会年報 昭和62年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告16 (財)八尾市文化財調査研究会

29 中田遺跡(2003-261)の調査

- 調査名：分譲住宅建設に伴う造構確認調査
- 調査地：八尾市中田2丁目12番2
- 調査期間：平成15年12月5日
- 調査方法：人孔部分(規模2.0×1.5m 面積3.0m²)の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.+9.8m)を使用した。
- 調査概要：現地表下約1.5mまでに1層の堆積を確認した。1層は盛土で、産業廃棄物が混じっている。造構の検出および遺物の出土はなかった。
- まとめ：工事による掘削は盛土内でおさまる。このため、盛土以下、本來堆積している地層の確認はできなかった。



第42図 地層断面図(S=1/100)

(西村)

参考文献

- 1974『中田道路』中田遺跡調査報告Ⅰ 日本電信電話公社大阪東地区管理部地下線埋設工事に伴う調査 中田遺跡調査センター
- 猪 齋 1999「3. 中田遺跡(91-503)の調査」『八尾市内遺跡平成4年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告
28 平成4年度公共事業 八尾市教育委員会

30 西郡廃寺(2003-89)の調査

1. 調査名：痴呆性高齢者グループホーム建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市泉町1丁目2、2-2、2-3
3. 調査期間：平成15年6月18日
4. 調査方法：建物基礎部分に2.0m四方の調査区を2箇所設定し調査を行った。レベル高は、八尾市発行の1/2500の地図に記載している標高値(調査地の北西側T.P.+4.9m)を使用した。
5. 調査概要：調査は、現地表下約1.3mまで機械と人力を併用し実施した。北側を第1区、南側を第2区とする。

【第1区】1層は盛土で、陶磁器の破片が多く含まれている。上面の標高はT.P.+4.8m前後を測る。2層 10Y4/1灰色粗粒砂混粘土、2'層 2.5Y6/1黄灰色粘土で両層は近世溝の埋土である。3層 5B5/1青灰色粗粒砂混粘土 5B5/1青灰色粘土のブロック混入である。中世の遺物包含層である。4層 2.5Y5/3黄褐色細粒砂と粗粒砂のラミナである。

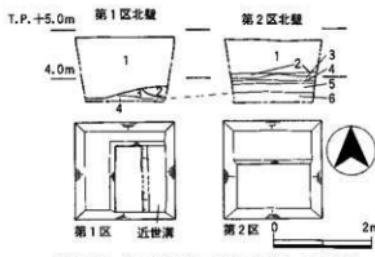
【第2区】1層は盛土で、上面はT.P.+4.8m前後を測る。2層は10YR3/1黒褐色細粒砂混粘土で、両層は旧耕作土である。4層は5B4/1暗青灰色粗粒砂混粘土で、5層は10BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土でN3/0灰色粘土のブロックが混入する。5層からは鎌倉～江戸時代頃の遺物が出上した。1は近世の青磁の香炉で、三方向に突起がつく。6層は10YR5/2灰黄褐色細粒砂と粗粒砂のラミナである。

6. まとめ：今回の調査ではT.P.+3.8m前後で中世から近世の遺物包含層(第1区の3層、第2区の5層)を確認した。このことから、近隣に同時期の遺構が存在している可能性が高いと思われる。(西村)

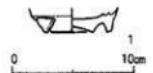
31 西郡廃寺(2002-367)の調査

1. 調査名：老人福祉施設増築に伴う構造確認調査
2. 調査地：八尾市幸町6丁目21-3、24-1、24-4、31-4、31-5、31-10、33-1、33-2、33-3、34-3、36-1、36-2、37
3. 調査期間：平成15年8月6日
4. 調査方法：建物基礎部分に3.0m四方の調査区を2箇所設定し調査を行った。レベル高は、八尾市発行の1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南西側T.P.+4.8m)を使用した。
5. 調査概要：調査は、現地表下約3.0mまで機械掘削と人力掘削を併用し実施した。南側を第1区、北側を第2区と呼称する。

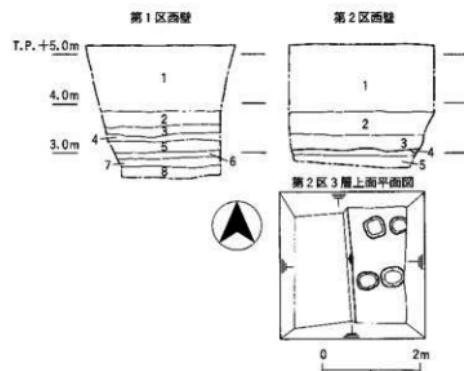
【第1区】1層は盛土で、上面の標高は



第43図 地層断面図・平面図(S=1/100)



第44図 第2区5層出土遺物実測図(S=1/4)



第45図 地層断面図・平面図(S=1/100)

T.P.+5.2m前後を測る。2層は5B4/1暗青灰色粗粒砂混粘土、3層は5B6/1青灰色粗粒砂混粘土(10BG4/1暗青灰色粘土のブロックが混じる)で、土師器や須恵器の破片が少量出土した。4層は10BG6/1青灰色粗粒砂混粘土。5層は10YR5/8黄褐色細粒砂混粘土でマンガンの斑点が全体的に確認できる。6層は10YR7/1灰白色粘土質細粒シルト。上面の標高はT.P.-3.0mである。7層10YR6/1褐灰色粘土で、植物遺体を多く含む。8層は7.5YR6/1褐灰色細粒シルト質粘土である。6層上面で調査を行ったが遺構の検出および遺物の出土はなかった。

[第2区] 1層は盛土で、上面はT.P.+5.2m前後を測る。2層は5B4/1暗青灰色粗粒砂混粘土、3層は7.5Y4/1灰色粗粒砂混粘土(N5/0灰色粘土のブロックが混じる)で占墳時代後期～鎌倉時代の遺物の破片が少量出土した。うち圓化したものは瓦器挽(1)で、内面見込みにミガキを施す。4層は10YR7/1灰白色粘土質細粒シルトで、上面は標高T.P.+3.1mである。5層は10YR6/1褐灰色細粒シルト混粘質土である。4層上面で調査を行い、土坑を4基(S K201～204)検出した。

S K201の平面形状は隅丸の方形で、一边0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ約0.1mを測る。埋土は10Y5/2オリーブ灰色粘土質粗粒シルトで、遺物の出土はなかった。

S K202の平面形状は円形で、径約0.3mを測る。断面形状は逆台形で、深さ約0.1mを測る。埋土は10Y5/2オリーブ灰色粘土質粗粒シルトで、遺物の出土はなかった。

S K203・S K204の平面形状は梢円形で長径約0.42～0.47m、短径約0.36～0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ約0.15mを測る。埋土は5Y5/2灰オリーブ色細粒砂混粘土で、遺物の出土はなかった。

6.まとめ：土坑については、出土遺物もないため、時期は不明である。しかし、今回の調査地の北側約30m地点に隣接する同遺跡第1次調査では、同規模の遺構がT.P.+3.0～3.2m前後の地層から遺構が多数検出され、奈良～平安時代の掘立柱建物が存在していたことを確認している(高萩2000)。このことから、今回検出した土坑は同時代の遺構と考えることもできる。
(西村)

参考文献

- ・高萩千秋 2000.10. 西都廃寺遺跡第1次調査(NKT99-1).『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』
(財)八尾市文化財調査研究会

32 東弓削遺跡(2003-127)の調査

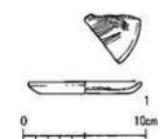
1. 調査名：店舗建築に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市大字東弓削131番地1
3. 調査期間：平成15年7月16日
4. 調査方法：合併浄化槽部分(規模4.5×2.5m面積11.25m²)の調査を行った。レベル高は、調査地の東約100mにある標高値(T.P.+12.0m)を使用した。
5. 調査概要：現地表下約1.0mまで機械と人力を併用し掘削を行なった。1層はN3/0暗灰色粗粒砂混粘土で、上面はT.P.+11.5mである。2層は10YR7/1灰白色粗粒砂混粘土。3層は10YR5/2灰褐色粗粒砂混細粒砂。4層は2.5Y6/1灰黄色細粒砂混粘土で、土師器の皿(1)が出土した。1は内面にミガキを施す。5層は2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂混粘土。
- 6.まとめ：今回の調査の第4層上面では畦畔を確認した。また、4層の上方は搅拌を受けていることから、水田が存在していたと考えられる。水田の時期は4層内から出土した遺物から鎌倉時代以降に比定できる。(西村)



第46図 第2区2層出土
遺物実測図(S=1/4)



第47図 地層断面図(S=1/100)



第48図 出土遺物実測図
(S=1/4)

33 東弓削遺跡(2003-150)の調査

- 調査名：保育園新築に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市八尾木3-23・3-24・3-26
- 調査期間：平成15年9月4日
- 調査方法：調査地内に2m×2mの調査区を北から第1区、第2区と称して2箇所設定し、掘削は現地表から約1.5~1.8mまで実施した。

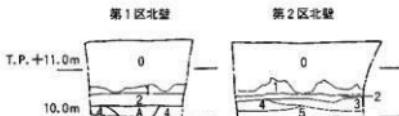
5. 調査概要：【層序】両調査区とともに現地表から1m前後は以前の建築物に伴なう盛土(第0層)で、その下に0.2m前後の旧耕作土(第1層)が堆積する。第2層-10BG6/1青灰色砂質シルト(中世の瓦器片が含まれる)、第3層-5B7/1明青灰色粗粒砂～細繊(汎濁性の堆積層で、湧水が認められる)、第4層-10YR6/6明黄褐色シルト(平安時代頃の土師器皿の破片が含まれる。第1区では本層上面から切り込む遺構の可能性が高い堆積層(A層: 7.5YR6/3にぶい褐色シルト)を確認した)、第5層-5Y4/1灰色粘土質シルト(飛鳥～奈良時代頃の遺物が含まれる)、第6層-7.5YR4/1褐色粘土質シルト(古墳時代の須恵器片が含まれる)。

【出土遺物】出土した遺物の中で図化できたものは、第2区の第5層から飛鳥時代に比定される杯2点(1・2)、高杯1点(3)、羽釜1点(4)の4点ですべて土師器製である。1・2は、ともに緩やかに内弯する体部を有するが、口縁端部については1が僅かに外折し、2はそのまま丸くおさまるといった相違がある。調整はいずれも内面が放射状のヘラミガキ、外面がユビオサエである。色調はいずれも褐色を呈する。3は小振りの高杯と思われ、杯底部と口縁部の境目に接合時のものと考えられる凸帯状のものが残る。脚柱部の内外面にはユビオサエの痕が顯著に残る。色調は灰褐色を呈する。4は鉢部のみの残存で、鉢部そのものはヨコナデであるが、体部との接合面にあたるところにはハケナデが見られる。胎土には雲母・角閃石が見られるほか、砂粒が多く含まれる。色調は茶灰色を呈する。以上の遺物は、飛鳥時代に属するものと考えられる。

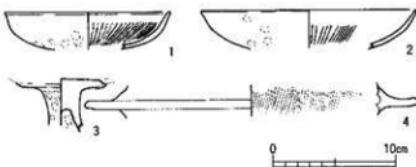
6.まとめ：本調査地の北側にあたる市道内では、平成6年度に八尾市教育委員会によって公共下水道工事に伴う調査が実施されている。その調査結果を見ると、層位的には今回の調査とはほぼ同じ様相を呈しており、第2層に相当するところでは中世の構造遺構が確認されている。さらに遺物では古墳時代後期、奈良時代末～鎌倉時代にかけてのものが出土しており、今回の調査と合致している。また、同教育委員会の調査では今回の調査の最終深度よりさらに下層において、弥生時代中期後半の遺物包含層が確認されている。これらのことから当地一帯は、弥生時代中期後半以降から中世にかけて比較的安定した土地条件であったことが窺われる。(岡田)

参考文献

- ・酒 崑 1995 | 6. 東弓削遺跡(93-298)の調査
『八尾市内遺跡平成6年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告32 平成6年度公共事業 八尾市教育委員会



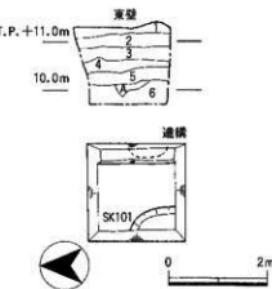
第49図 地層断面図(S=1/100)



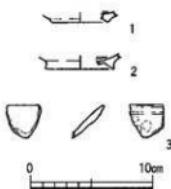
第50図 第2区第5層出土遺物実測図(S=1/4)

34 東弓削遺跡(2003-239)の調査

- 調査名：通信用鉄塔建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市大字都塚142-1番地
- 調査期間：平成15年10月10日
- 調査方法：通信用鉄塔部分（規模2.0×2.0m面積4.0m²）の調査を行った。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値（調査地の南西側道路上T.P.+13.0m）を使用した。
- 調査概要：現地表下約1.6mまでに6枚の地層を確認した。1層は10YR5/1褐色灰色細粒砂混粘土で、上面はT.P.+11.25mを測る。2層7.5YR7/2明褐色粗粒シルト混粘土、層10YR4/4褐色細粒砂混粘土、4層10YR6/1褐色灰色細粒シルト質粘土、5層2.5Y5/6黄褐色細粒砂混粘土である。6層は5B5/1青灰色粘土で、上面から切り込む遺構（SK101）を検出した。SK101の堆上はA-2.5Y5/1褐色細粒砂混粘土上の単一層で、出土遺物はなかった。遺構の時期は不明であるが、4層からは土師器が出土していることから、平安時代以前のものと思われる。出土遺物は、2層から瓦器碗（1）が、3層から瓦器碗（2）が、4層から土師器杯（3）が出土した。1は「ハ」の字にひらく低い高台が貼り付く鎌倉時代のものと思われる。2は断面三角形の高い高台が貼り付く平安時代後期頃のものと思われる。3は平安時代のものと思われる。
- まとめ：今回の調査ではT.P.+10.1~10.2m前後で鎌倉時代以前の遺構を検出した。また、4層の上方は、搅拌を受けしており、北側では畦畔状の高まりを確認した。このことから4層上面には鎌倉時代頃の水田が存在していたと思われる。



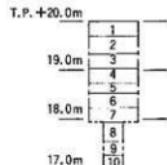
第51図 地層断面図・平面図(S=1/100)



第52図 出土遺物実測図(S=1/4)

35 水越遺跡(2002-343)の調査

- 調査名：知的・身体障害者授産施設建設に伴う遺構確認調査
- 調査地：八尾市水越2-81、82
- 調査期間：平成15年8月11日
- 調査方法：調査地内に2.5×2.5mの調査区を北から第1～4区と称して計4箇所設定し、現地表(T.P.+20m前後)から約2mまでの掘削を実施した。なお、第4区については工事の規模から現地表から4mまでの調査を行った。
- 調査概要：現地表から0.3m前後は現代の耕作土（第1層）、第2層～灰褐色系シルト（第4区では中世頃の土師器の小破片を含む）、第3層～暗褐色系のシルト（土壤化を想起させるような淘汰の悪い堆積層）、第4層～褐色～灰褐色系砂礫混じりシルト、第5層～黄橙色系細粒砂～中粒砂（泡濁性の水成層、第1区では弥生時代後期に比定される甕の小破片を検出した）、第6層～黄橙色～黄褐色系砂礫混じり粘土質シルト、第7層～オリーブ色系粘土質シルト、第8層～にぶい黄橙色砂礫混じりシルト、第9層～明青灰色粘土質シルト、第10層～暗青灰色シルト～砂質シルト。
- まとめ：今回の調査では遺構が検出されなかったが、第1区の水成層から出土した弥生時代後期の土器片は、近隣に該期の河川の存在を示唆する。



第53図 地層模式図
(S=1/100)

36 水越遺跡(2003-233)の調査

1. 調査名：個人住宅建設工事に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市服部川3丁目9-2、10-3、10-4、164-3
3. 調査期間：平成15年11月26日

4. 調査方法：建設予定地内に2m四方の調査区を2箇所(第1区・第2区)、南北1.5m×東西2mの調査区(第3区)を1箇所の計3箇所の調査区を設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+約19.2m)下約1.0~1.5mまでの掘削を行った。

5. 調査概要：【層序】現地表から第1層-10YR3/1黒褐色シルト(現代の作土層)、第2層-10YR5/6黄褐色砂礫混じりシルト、第3層-N6/0灰色砂質シルト、第4層-5PB7/1明青灰色砂質シルト、第5層-10YR4/4褐色シルト、第6層-2.5Y7/4浅黄色粘土質シルト、第7層-2.5Y5/1黃灰色砂質シルト、第8層-2.5Y7/4浅黄色粘土質シルト、第9層-N7/0灰白色細粒砂～中粒砂(第2区で確認した流路を示唆する堆積層である)、第10層-N3/0暗灰色シルト、第11層-N2/0黒色粘土質シルト、第12層-5PB4/1暗青灰色粗粒砂～細砾(第3区で確認した。径5~10mm程の礫と植物炭化物を含む)の計12層を確認した。

6.まとめ：周辺における既往の調査では、縄文時代晩期のビット、弥生時代後期の居住域、古墳時代後期～奈良時代にかけての河川跡が検出されている。これらの調査成果と照合すると、今回の調査で確認した第11層が縄文時代晩期および弥生時代後期、第2～5層が古墳時代後期～奈良時代にかけての河川にそれぞれ対応するものと推定される。
(岡田)



第54図 地層断面図(S=1/100)

37 矢作遺跡(2003-270)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
2. 調査地：八尾市高美町6丁目112番1
3. 調査期間：平成15年11月21日

4. 調査方法：人孔部分(規模2.0×2.0m面積4.0m²)4箇所の調査を実施した。北側から南へ第1区～第4区と呼称する。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南側道路上T.P.+11.0m)を使用した。

5. 調査概要：【第1～4区】現地表下約1.2mまでに7層の堆積を確認した。1層は盛土で、現地表面はT.P.+10.4～10.6m前後を測る。2層は旧耕作土で、厚み約0.15～0.2mを測る。3層10YR7/3にぶい黄褐色粗粒砂混粗粒シルト、4層10YR6/1褐灰色細粒砂混粗粒シルト、5層10YR7/1灰白色粗粒シルトと細粒シルトのラミナ、で、3～5層は砂層の流水堆積である。6層は10YR5/1褐灰色細粒砂混粘土で、上面は攪拌をうけており、第1区では畦畔状の高まりを確認した。7層は2.5Y4/1黄灰色細粒砂混粘土で礫が混じる。

遺物は、第1区のあげ土から古墳時代中期以降の土器器の破片が極少量出土した。

6.まとめ：6層上面は水田と思われるが、遺物の出土が少なく、時期は決定できなかった。しかし、周辺の調査結果から、平安時代以降に比定できると考える。(西村)



第55図 地層断面図(S=1/100)

38 弓削遺跡(2003-195)の調査

1. 調査名：分譲住宅建設に伴う遺構確認調査

2. 調査地：八尾市志紀町南2丁目49

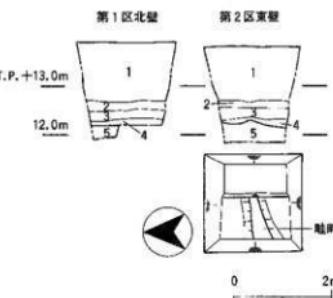
3. 調査期間：平成15年10月24日

4. 調査方法：人孔部分に規模2.0×2.0mの調査区を2箇所設定し調査を行った。北側を第1区、南側を第2区と呼称した。今回の調査では八尾市作成1/2500の地図に記載している標高値(調査地の南東側道路上T.P.+13.6m)を使用した。

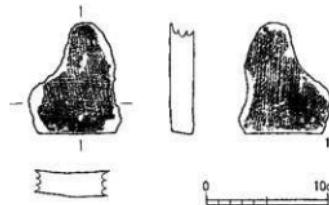
5. 調査概要：【第1区】現地表下約2.0mまでに5層の堆積を確認した。1層は盛土で、2層はN2/0黒色細粒砂混粘土の旧耕作土である。3層は5B5/1青灰色細粒砂混粘土、4層5BG5/1青灰色粘土である。5層は7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土(炭化物含む)で上面は搅拌をうける。層内からは土師器・須恵器・黒色上器の破片が少量出土した。【第2区】現地表下約2.0mまでに第1区と同様、5層の堆積を確認した。5層上面は搅拌をうけており、土師器の破片が少量出土した。上面では、東西方向に伸びる畦畔を検出した。下幅0.5~0.8m、高さ0.05mを測る。また、上げ土のため出土地層の特定はできないが、平瓦(1)の破片が出土した。凹面に布目、凸面に繩目を施す。

6.まとめ：第2区で検出した畦畔は、水田に伴うものと推定され、出土遺物から、平安時代以降のものである可能性が高いと思われる。

(西村)



第56図 地層断面図・平面図(S=1/100)



第57図 出土遺物実測図(S=1/4)

図版 1 老原遺跡

(2002
→
442)



1 老原2002-442 調査地（南東から）



2 佐堂2003-202 調査地周辺（北西から）



3 成法寺2002-2 第1区北壁



4 東郷2002-426 調査地周辺（北東から）

の調査
佐堂遺跡
(2002
→
202)

の調査

成法寺遺跡
(2002
→
2)

の調査

東郷遺跡
(2002
→
426)

の調査



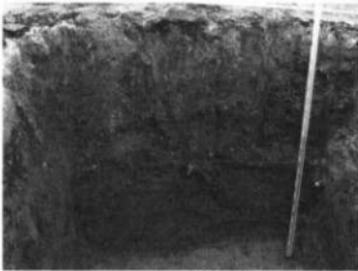
1 老原2002-442 西壁



2 佐堂2002-202 第1区全景（西から）

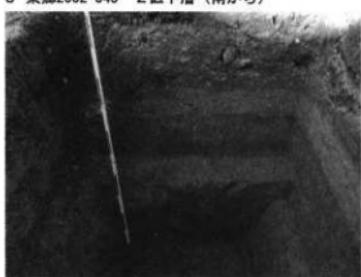
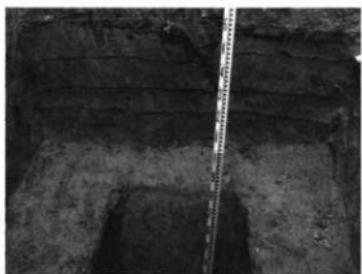


3 成法寺2002-2 第2区東壁（南西から）



4 東郷2002-426 第2区西壁

図版
2 東郷遺跡
(2002
→ 426)
の調査
東郷遺跡
(2002
→ 345)
の調査
東郷遺跡
(2002
→ 479)
の調査



図版 3 東郷遺跡（2002-479）の調査 中田遺跡（2002-428）の調査 美園遺跡（2002-424）の調査 跡部（2002-496）の調査



6 東郷2002-479 第1区全景（西から）



7 中田2002-428 調査地周辺（東から）



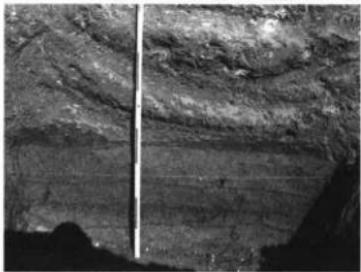
8 美園2002-424 調査地周辺（北東から）



9 跡部2002-496 調査地周辺（南東から）



6 東郷2002-479 第2区全景（北から）



7 中田2002-428 北壁



8 美園2002-424 北壁



9 跡部2002-496 北区北壁

図版
4
跡部遺跡
(2003
128)
の調査
跡部遺跡
(2003
201)
の調査
植松遺跡
(2003
145)
の調査



10 跡部2003-128 2区西壁



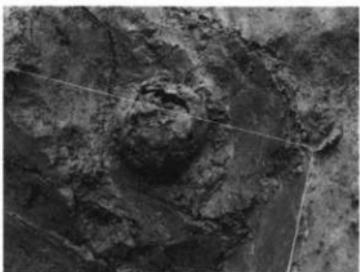
11 跡部2003-201 調査地周辺（南西から）



11 跡部2003-201 第2区南壁



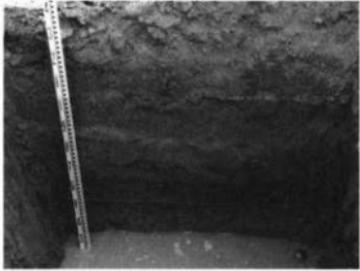
12 植松2003-145 調査地周辺（南東から）



10 跡部2003-128 2区古墳時代中期の遺物（東から）



11 跡部2003-201 第1区西壁



11 跡部2003-201 第3区西壁



11 植松2003-145 第2区南壁

図版 5 太田遺跡（2003-277）の調査 大竹西遺跡（2003-41）の調査 亀井遺跡（2003-178）の調査



13 太田2003-277 調査地周辺（南西から）



13 太田2003-277 第1区西壁



14 大竹西2003-41 調査地周辺（南西から）



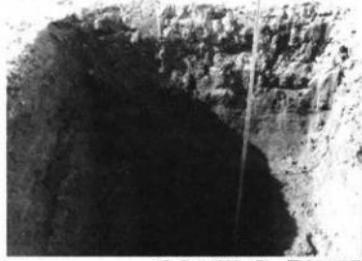
14 大竹西2003-41 西壁



15 亀井2003-178 調査地周辺（東南から）



15 亀井2003-178 調査地周辺（東から）



15 亀井2003-178 調査区西壁



15 亀井2003-178 調査区全景（東から）

図版
6 亀井遺跡
(2003
178)
の調査
木の本遺跡
(2003
131)
の調査
久宝寺遺跡
(2003
34)
の調査



15 亀井2003-178 西壁



15 亀井2003-178 第2面全景（東から）



16 木の本2003-131 調査地周辺（北東から）



17 久宝寺2003-34 1区西壁



15 亀井2003-178 遺構検出状況（東から）



15 亀井2003-178 西壁下層断面（南東から）



16 木の本2003-131 第3区全景（東から）



17 久宝寺2003-34 3区北壁

図版 7 久宝寺遺跡（2003-34）の調査 久宝寺遺跡（2003-305）の調査



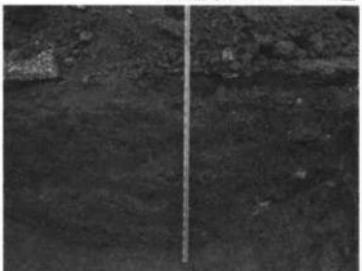
17 久宝寺2003-34 5区北壁



18 久宝寺2003-305 西壁



17 久宝寺2003-34 6区北壁



18 久宝寺2003-305 西壁



19 郡川2002-304 調査地周辺（南西から）

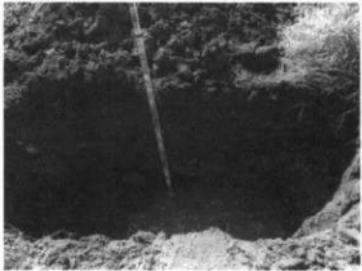


20 郡川2003-219 調査地周辺（北から）

図版 8 郡川遺跡（2003-304）の調査 郡川遺跡（2003-219）の調査



19 郡川2002-304 第2区西壁



20 郡川2003-219 第1区全景（北から）

図版 8 佐堂遺跡 (2003-291) の調査



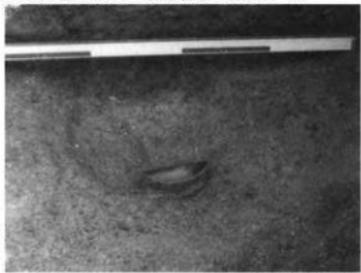
21 佐堂2003-291 調査地周辺（北西から）

太子堂遺跡 (2003-72) の調査



22 太子堂2003-72 調査地周辺（南東から）

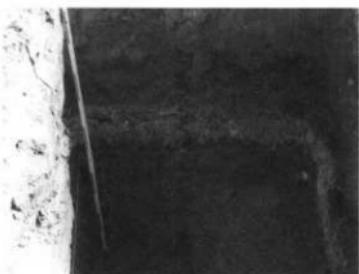
田井中遺跡 (2003-224) の調査



22 太子堂2003-72 第4区遺構検出状況（北から）



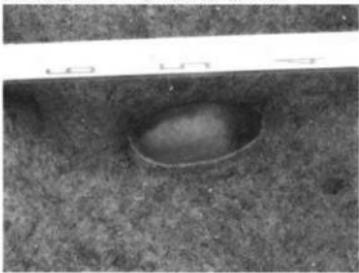
23 田井中 2003-224 調査地周辺（南東から）



21 佐堂2003-291 全景（西から）



22 太子堂2003-72 第4区全景（北から）

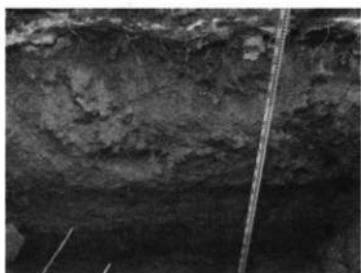


22 太子堂2003-72 瓦器検出状況（北から）



23 田井中2003-224 第3区東壁

図版 9 東郷遺跡（2003-50）の調査 東郷遺跡（2003-40）の調査



24 東郷2003-50 第1区北壁



24 東郷2003-50 機械掘削状況（南東から）



25 東郷2003-40 調査地周辺（南西から）



25 東郷2003-40 第1区全景（南から）



24 東郷2003-50 第2区南壁



24 東郷2003-50 調査地周辺（東から）



25 東郷2003-40 調査状況（西から）

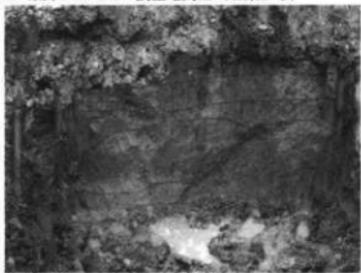


25 東郷2003-40 第2区全景（東から）

図版
10 東郷遺跡
(2003
→234)
の調査
中田遺跡
(2003
→315)
の調査
中田遺跡
(2003
→203)
の調査
中田遺跡
(2003
→261)
の調査



26 東郷2003-234 調査地周辺（北東から）



27 東郷2003-315 第1区北壁



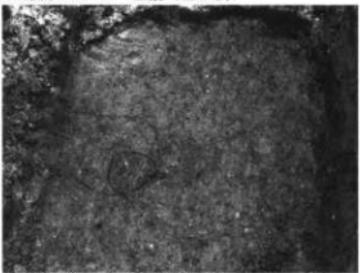
28 中田2003-203 調査地周辺（北から）



29 中田2003-261 調査地周辺（北東から）



26 東郷2003-234 全景（北から）



27 東郷2003-203 全景（北から）



28 中田2003-203 全景（北から）



29 中田2003-261 全景（西から）



30 西都廃寺2003-89 調査地周辺（南から）



31 西都廃寺2003-367 機械掘削状況（北西から）



31 西都廃寺2003-367 第2区全景（南から）



32 東弓削2003-127 調査地周辺（南西から）



30 西都廃寺2003-89 第1区全景（南から）



31 西都廃寺2003-367 全景（北から）



31 西都廃寺2003-367 遺構検出状況（東から）



32 東弓削2003-127 北壁

図版
12

東弓削遺跡
(2003
150)

の調査

東弓削遺跡
(2003
239)

の調査

水越遺跡
(2003
343)

の調査



33 東弓削2002-150 調査地周辺（北から）



34 東弓削2003-239 調査地周辺（南西から）



35 水越2002-343 調査地周辺（南から）



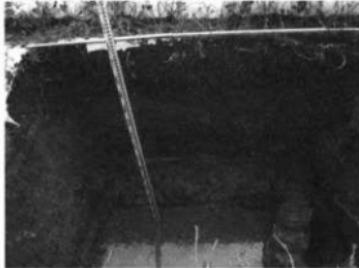
35 水越2002-343 第2区北壁



33 東弓削2003-150 第1区北壁



34 東弓削2003-239 全景（西から）



35 水越2002-343 第1区東壁



35 水越2002-343 第4区南壁

図版 13 水越遺跡（2003-233）の調査 矢作遺跡（2003-270）の調査 弓削遺跡（2003-195）の調査



36 水越2003-233 調査地周辺（南西から）



36 水越2003-233 第1区東壁



37 矢作2003-270 調査地周辺（北西から）



38 弓削2003-195 調査地周辺（北西から）



36 水越2003-233 第1区東壁



36 水越2003-233 第3区北壁



37 矢作2003-270 第1区全景（東から）



38 弓削2003-195 第2区全景（北から）

図版
14
東郷遺跡
(
2002
426
)
の調査
跡部遺跡
(
2003
128
)
の調査
龜井遺跡
(
2003
178
)
の調査



4 東郷遺跡2003-426 出土遺物 (2)



10 跡部遺跡2003-128 出土遺物



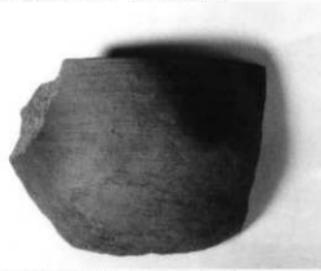
15 龜井遺跡2003-178 出土遺物 (7)



15 龜井遺跡2003-178 出土遺物 (8)



15 龜井遺跡2003-178 出土遺物 (9)



15 龜井遺跡2003-178 出土遺物 (19)

報告書抄録

ふりがな	やおしないいせきへいせい15ねんどはくつちょうさはうこくしょ				
書名	八尾市内温帯平成15年度防振調査報告書				
副書名	平成15年度防振調査報告書				
巻次					
シリーズ名	八尾市文化財調査報告書				
シリーズ番号	4 9				
著者名	岡田清一 高橋千秋 成海佳子 西村公助 関口 黒 稲井淳弘				
編集機関	八尾市教育委員会				
所在地	〒581-0003 大阪府八尾市本町1丁目1番1号 ☎ 0729-24-8555				
発行年月日	西暦 2004年3月31日				
所蔵登録名	所 在 地	北 緯・東 綰	調査期間	調査面積 (m ²)	調 金 原 因
市町村: 調査番号	・	・			
草 原 道 市	八尾市大字草原1丁目12番1の一部	27212 38 34.36 19 135.36 17	2003/02/18	8	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
草 原 道 市	八尾市内野町2丁目62の一部	27212 33 34.37 52 135.35 39	2003/02/25	8	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
成 城 寺 道 市	八尾市吉田町2丁目90番3の一部、90番25の一部、90番2、37番1、37番2	27212 73 34.27 15 135.36 30	2003/02/29	8	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
草 原 道 市	八尾市吉田町2丁目132番地	27212 37 34.27 41 135.36 37	2003/02/29	27	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
東 陽 道 市	八尾市東陽町3丁目14番2	27212 37 34.37 34 135.36 38	2003/03/10	8	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
東 陽 道 市	八尾市東陽町3丁目84番85、100	27212 37 34.37 41 135.36 42	2003/03/13	18	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
中 山 道 市	八尾市中山町北2丁目109-2	27212 28 34.36 47 135.37 04	2003/02/17	4	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
中 山 道 市	八尾市中山町4丁目65-109、110	27212 34 34.38 13 135.35 41	2003/02/12	4	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
新 町 道 市	八尾市新町2丁目4番7-1、47-2	27212 64 34.36 55 135.35 13	2003/02/01	6.25	手掘り工事建設に伴う遮音確認調査
新 町 道 市	八尾市新町2丁目4番7-1、47-2	27212 64 34.36 59 135.35 33	2003/02/18	27	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
新 町 道 市	八尾市新町2丁目51の一部、52の一部	27212 64 34.36 59 135.35 33	2003/02/18	27	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
新 町 道 市	八尾市新町2丁目54-55、1-1-4-1-4-2-2-3-4-5-5の一部	27212 64 34.36 52 135.35 10	2003/02/01	6.75	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
新 町 道 市	八尾市新町2丁目54-55、1-1-4-1-4-2-2-3-4-5-5の一部	27212 63 34.36 49 135.36 01	2003/02/01	8	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
大 木 町 道 市	八尾市大木町2丁目95番地	27212 68 34.35 28 135.35 36	2003/02/04	2.25	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
大 木 町 道 市	八尾市大木町2丁目140、141、142	27212 54 34.38 17 135.36 24	2003/02/13	6	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
魚 井 道 市	八尾市魚井町2丁目22-23-24番	27212 26 34.46 45 135.34 45	2003/01/13-20/8-10	40	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
木 の 本 道 市	八尾市木の本5丁目60番1-2	27212 35 34.35 57 135.35 34	2003/02/02	12	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
木 の 本 道 市	八尾市木の本5丁目60番1-2	27212 23 34.37 01 135.35 29	2003/02/09-19	63	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
入 之 今 道 市	八尾市北守2丁目10番	27212 23 34.37 43 135.35 14	2003/02/09	9	手掘り工事建設に伴う遮音確認調査
新 町 道 市	八尾市新町1丁目80、81	27212 60 34.37 06 135.38 16	2003/02/06	12	新規建築工事建設に伴う遮音確認調査
新 町 道 市	八尾市新町1丁目38番地	27212 60 34.37 02 135.38 11	2003/02/01	12	新規建築工事建設に伴う遮音確認調査
新 町 道 市	八尾市新町2丁目16番3-17番3	27212 33 34.37 56 135.35 47	2003/02/12	8	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
太子 町 道 市	八尾市太子町4丁目81番及び80番2の一部	27212 62 34.36 24 135.35 22	2003/02/05	16	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
田 井 中 通 道 市	八尾市田井中通2丁目48番1	27212 69 34.35 56 135.36 24	2003/02/14	12	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
奥 齋 道 市	八尾市奥齋2丁目39	27212 37 34.37 36 135.36 35	2003/02/14	12.5	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
奥 齋 道 市	八尾市奥齋2丁目16-17	27212 37 34.37 57 135.36 29	2003/02/16	12.5	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
末 梶 道 市	八尾市末梶町4丁目15-8	27212 37 34.37 28 135.36 29	2003/02/08	6.25	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
末 梶 道 市	八尾市末梶町1丁目25番	27212 37 34.37 29 135.36 37	2003/02/01	12	共同住宅建設に伴う遮音確認調査
中 山 道 市	八尾市中山町2丁目43-1	27212 28 34.36 58 135.37 21	2003/02/03	2.25	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
中 山 道 市	八尾市中山町2丁目12番2	27212 28 34.36 47 135.36 59	2003/02/05	3.1	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
西 御 寺 道 市	八尾市西御寺2丁目2-2-2-3-3	27212 46 34.38 47 135.36 31	2003/02/08	8	在住者調査グレーバー調査に伴う遮音確認調査
西 御 寺 道 市	八尾市西御寺6丁目21-3、24-1、24-4、31-4、31-5、31-10、33-1、33-2、37-3、34-3、34-3、36-1、36-2、37-6-1	27212 46 34.38 35 135.36 29	2003/02/06	18	老人福祉施設基盤に伴う遮音確認調査
西 御 寺 道 市	八尾市西御寺6丁目21-3、24-1、24-4、31-4、31-5、31-10、33-1、33-2、37-3、34-3、34-3、36-1、36-2、37-6-1	27212 31 34.35 58 135.37 21	2003/02/16	11.25	在住者調査に伴う遮音確認調査
東 京 道 市	八尾市東京町4丁目15-8	27212 31 34.36 11 135.37 16	2003/02/04	8	付帯施設に伴う遮音確認調査
東 京 道 市	八尾市東京町4丁目12-1-葉地	27212 31 34.36 06 135.37 25	2003/02/09	4	通気性地盤調査に伴う遮音確認調査
水 木 道 市	八尾市水木町2-81、82	27212 42 34.37 51 135.38 31	2003/02/11	25	付帯施設に伴う遮音確認調査
水 木 道 市	八尾市水木町3丁目9-2、10-3、10-4、16-1-3	27212 42 34.37 27 135.38 28	2003/02/16	8	個人住宅建設に伴う遮音確認調査
水 木 道 市	八尾市水木町6丁目11-11番1	27212 74 34.37 15 135.36 30	2003/02/21	16	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査
水 木 道 市	八尾市水木町2丁目49	27212 71 34.35 38 135.37 09	2003/02/04	8	分譲住宅建設に伴う遮音確認調査

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1 老原遺跡	集落	—	—	—	
2 佐堂遺跡	集落	鎌倉時代	—	土師器・瓦器	
3 成法寺遺跡	集落	—	—	瓦器	
4 東郷遺跡	集落	古墳時代中期	土坑	土師器	
5 東郷遺跡	集落	—	溝	—	
6 東郷遺跡	集落	古墳時代中期～後期	土坑	須恵器・土師器	
7 中田遺跡	集落	古墳時代前期	土坑	古式土師器	
8 美園遺跡	集落	—	—	—	
9 路沼遺跡	集落	—	—	—	
10 路沼遺跡	集落	古墳時代前期・中期・奈良時代	溝・土坑・河川	土師器	
11 路郷遺跡	集落	—	—	—	
12 植松遺跡	集落	—	—	—	
13 大田遺跡	集落	—	—	土師器・陶磁器	
14 大竹西遺跡	集落	—	—	—	
15 龜井遺跡	集落	弥生時代中期・後期	溝・土坑	弥生土器・石器	
16 木の本遺跡	集落	—	—	—	
17 久宝寺遺跡	集落	古墳時代中期～近世	—	—	
18 久宝寺遺跡	集落	—	—	—	
19 郡川遺跡	集落	弥生時代後期	溝	弥生土器	
20 郡川遺跡	集落	—	—	—	
21 佐堂遺跡	集落	—	—	—	
22 太子堂遺跡	集落	鎌倉時代	土坑	瓦器・土師器・須恵器	
23 四井中道遺跡	集落	—	—	—	
24 東郷遺跡	集落	古墳時代前期	—	—	
25 東郷遺跡	集落	古墳時代初頭～前期	土坑・溝	弥生土器・古式土師器	
26 東郷遺跡	集落	—	—	—	
27 東郷遺跡	集落	古墳時代前期	溝・柱穴	古式土師器	
28 中田遺跡	集落	—	—	—	
29 中出遺跡	集落	—	—	—	
30 西部庵寺遺跡	集落	近世	溝	青磁	
31 西部庵寺遺跡	集落	奈良時代～平安時代	土坑	瓦器	
32 東弓削遺跡	集落	鎌倉時代	畦畔	土師器	
33 東弓削遺跡	集落	飛鳥時代	—	土師器	
34 東弓削遺跡	集落	鎌倉時代	土坑	瓦器・土師器	
35 水越遺跡	集落	—	—	弥生土器	
36 水越遺跡	集落	—	—	—	
37 矢作遺跡	集落	—	—	—	
38 弓削遺跡	集落	平安時代	畦畔	瓦	

八尾市文化財調査報告49
平成15年度国庫補助事業

八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書

発行日 2004年3月31日

編集・発行 八尾市教育委員会

〒581-0030 八尾市本町1-1-1

TEL(0729)24-8555 (直通)

印 刷 (株)近畿印刷センター

